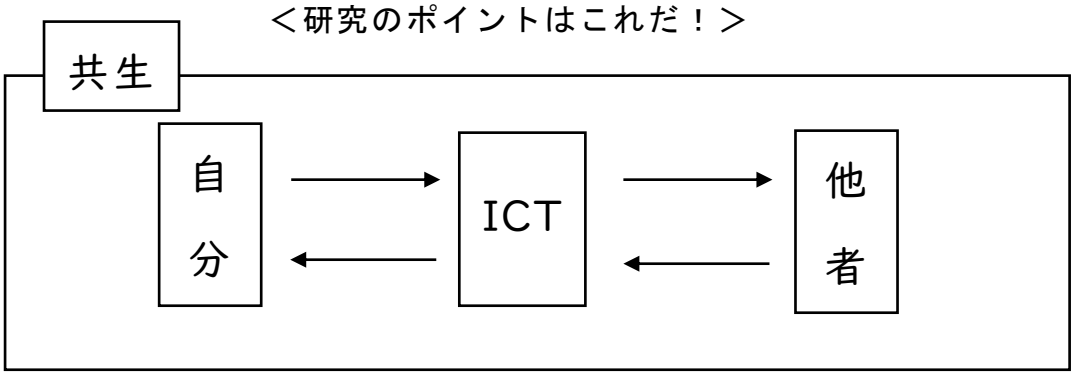
自分の考えを持ちながら他者を尊重し共生しようとする生徒の育成

―ICT を効果的に活用した意見の共有―

玉村町立玉村中学校　齋藤　晃一

＜研究のポイントはこれだ！＞



１　研究主題設定の理由

本校では今年度の研究主題として「ICT を効果的な場面で活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成」を掲げ、日々の実践例を共有しながらよりよい授業づくりを目標に授業改善に取り組んでいる。また昨年度玉村町研究所の研究員として１年間 ICT の効果的な活用方法について様々な実践を行い、研究員同士で意見交換を行ってきた。これらの状況、経験を活かし、道徳教育に特化した ICT の活用についても研究するためこの主題を設定した。

また近年の情報化社会や一人一台端末（家庭でのスマートフォンの利用を含む）の影響を受け、生徒も学校内外を問わずインターネットを活用しているが、膨大な情報を取捨選択できず鵜呑みにしてしまう生徒が増えているように感じる。ICT との関わりを断つのではなく上手く付き合わねばならない状況で、自分の意見を発信しやすいという ICT の利点を活用しつつ、自分の意見と他者の意見をすり合わせ、互いに尊重し共生できる生徒の育成を実現すべく、本主題を設定した。

２　研究のねらい

自己がよりよく生きることと他者と共存することを別のものではなく結びつけて考え、相手の意見を尊重するだけでなく自分の意見を主張し、答えのないことでも双方にとって納得のいく意見になるようにすり合わせながら互いに寄り添っていける生徒を育成する。そのために授業内で意見交流をする際に ICT を活用することは効果的なのかを考え、授業の改善を図っていく。その際 ICT を活用することだけに固執するのではなく、研究のねらいが達成されるためにはどうすれば良いかを常に考え、結果的に ICT が効果的だと判断した場合に活用できるように注意する。

３　研究の内容

（１）ワークシートのみを使用した従来の授業実践と、ICT を利用した授業実践の比較をし、どちらがより研究のねらいに近づけるかを探る。

（２）ICT の活用の仕方やどんな端末、アプリケーションが効果的か探る。本校では生徒は一人一台クロームブックを持っているため、ドキュメント、スプレッドシート、ジャムボード、グーグルフォームなどをどんな場面で活用できるか模索する。

（３）校内研修で ICT の実践例を共有する機会があるので、そこで得た情報、他教科での実践が道徳の授業に活かせるか検討する。

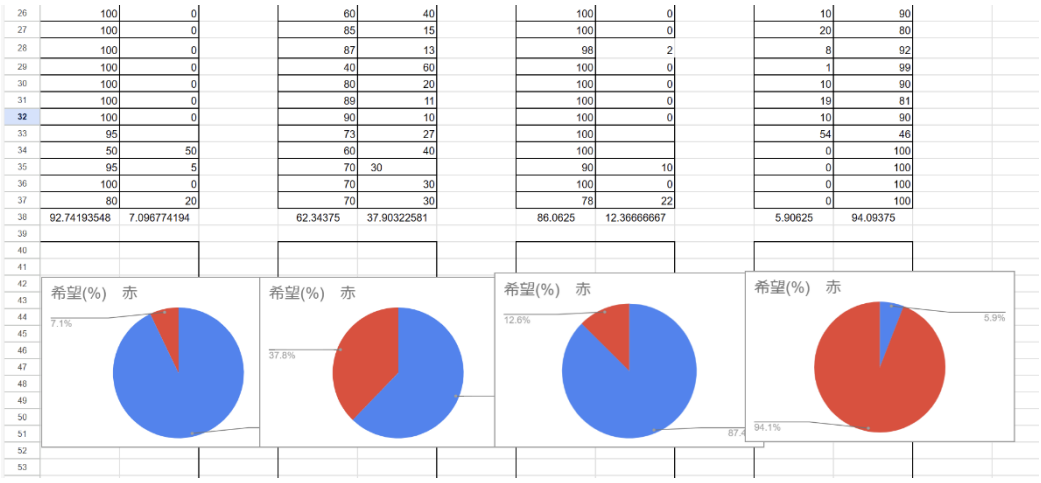
4　実践の内容

（1）①

導入、範読、発問に対する生徒の考えをワークシートに記入、班や全体で共有し意見交換、感想の記入といったオーソドックスな授業を行った。一見活発に意見交流が行われたように見えたが、いつも積極的に発言している生徒を中心に授業が流れてしまった。感想はどの生徒もよく書かれていたのでこれらの意見が授業内で共有されるべきだと感じた。

（1）②

比較として別の授業で ICT を効果的に使えそうな場面でクロームブックを使い、教科書に付属されている心情円をヒントに、グーグルフォームとスプレッドシートを利用して生徒一人ひとりの意見をもとに円グラフが自動でできるように設定した。全体の意見が一目瞭然になったり、普段発言しない生徒がどのような考えを持っているのかを知ったりすることができる良いきっかけになった。この円グラフをもとにより深い議論を行うことができなかったので、この材料をもとにお互いになぜその考えに至ったのかを考えさせる時間が必要だった。



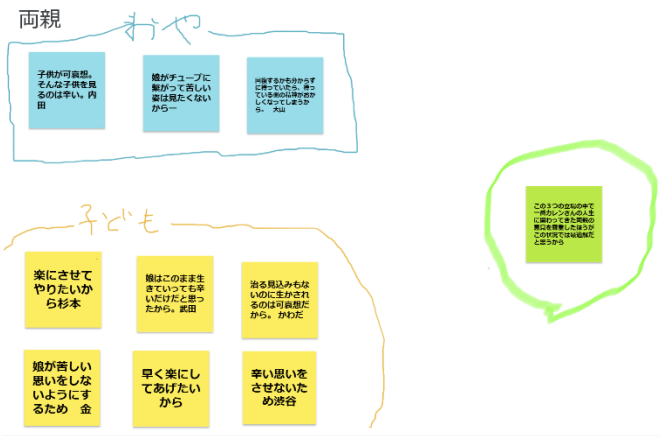
26	100	0		60	40		100	0		10	90
27	100	0		85	15		100	0		20	80
28	100	0		87	13		98	2		8	92
29	100	0		40	60		100	0		1	99
30	100	0		80	20		100	0		10	90
31	100	0		89	11		100	0		19	81
32	100	0		90	10		100	0		10	90
33	95			73	27		100			54	46
34	50	50		60	40		100			0	100
35	95	5		70	30		90	10		0	100
36	100	0		70	30		100	0		0	100
37	80	20		70	30		78	22		0	100
38	92.74193548	7.096774194		62.34375	37.90322581		86.0625	12.36666667		5.90625	94.09375

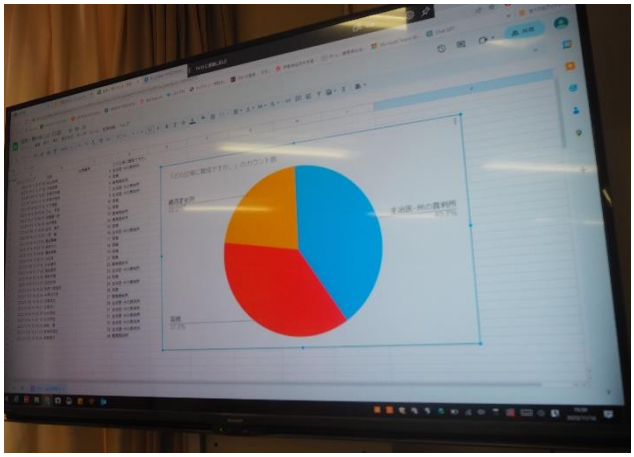
（2）①

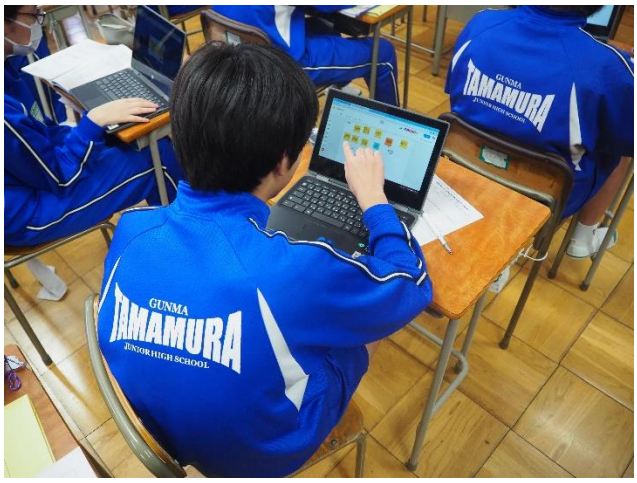
スプレッドシートを利用して感想を入力させた。他者の意見を気軽に見て参考にできる点や、自分の感想が紙媒体でなく一つの画面に集約・蓄積されることにはメリットがあるように感じたが、タイピングの速さが感想の質に影響を与えること、ワークシートとさほど変わらなかったこと、他の生徒の感想を参考にした結果似たような意見が集まってしまうことから、デジタルとアナログの使い分けについてもう少し考える必要があると感じた。

（2）②

実際にあった事件について自分ならどの立場に賛成かを考える授業で、スプレッドシートで全体の意見の分かれ具合を確認した後に、ジャムボードで立場ごとに主張をまとめ、それらをもとにミニディベートを行った。ジャムボードで意見をまとめる際に似た意見をグルーピングしたり色分けをしたりするように指示したことで同じ立場でも様々な意見があることや、ディベートなので反論ができるように伝えたことで違う立場の考えについて妥当性や自分と異なる意見を持つ人が一定数いることを感じさせることができた。最後の書かせた感想では、それぞれの立場に大切にしたい考えがあり、その中で何かを選択しなければならない難しさを感じている生徒や、全員が納得のいく結論を出すことは難しいが、自分と相手の考えを尊重する必要があると感じた生徒がいたため、研究のねらいに近づくことができた。

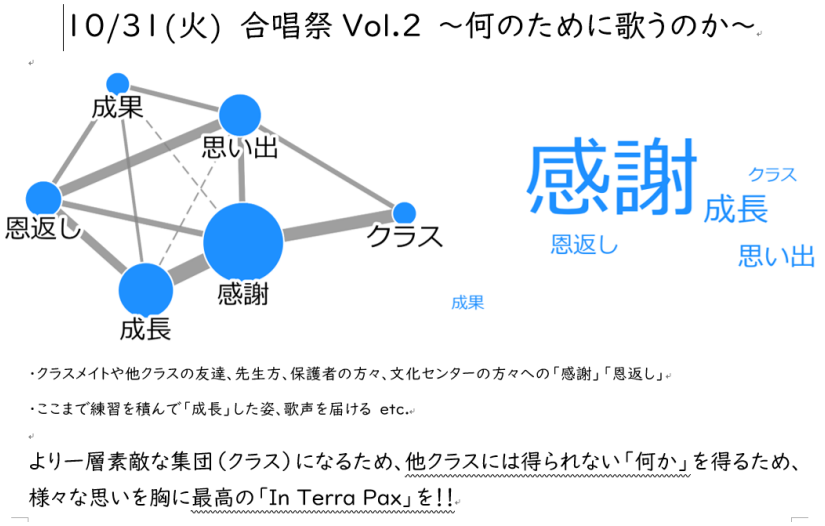






（３）①

校内研修で「AI テキストマイニング」の紹介があったため、道徳の授業でも活用した。「AI テキストマイニング」とは、グーグルフォームを使って生徒の意見を集め（なるべく短い単語で）それらをもとにどんな言葉がその集団で多く使われているかなどを分析してくれるものだ。頻度や品詞ごとにも分類することができ、また関連のある言葉どうしの結びつき等も図式化してくれるので、一目でクラスの意見を知ることができる。今回は道徳で学校行事の取り組み方、行事を通して何も最も大切にしたいか(クラスや個人の結果、感動、成長、思い出、絆など)について考えたのだが、以前ワークシートを用いてランキングにまとめた時よりもわかりやすくクラスの意見が可視化された。その後臨んだ合唱祭では生徒それぞれが目標を持って他者と協力することの大切さや得られるものについて感想を書くことができていた。



（３）②

グーグルのアプリケーションの１つである「クラスルーム」を使い、その日行った授業に関連する情報を生徒に共有した。「クラスルーム」の「ストリーム」に書き込みができるのだが、そこに「NHK for School」から関連する動画のリンクを張り付け、各自が家庭で動画を視聴できるようにした。日々の家庭学習がある中道徳の授業の一環として家で動画を見ること難しく、全ての生徒が動画視聴をすることはなかったが、数名は後日感想を伝えてくれた。道徳の授業内ではあくまで教員はファシリテーターであり、生徒が意見交換をする対象は他の生徒に限られてしまうが、このような取り組みを通して教員と生徒間の意見交換や、生徒の家庭内での意見交換も行われることに気づき、道徳教育の新たな可能性を感じた。自分とは異なる世代の人と意見を交換し議論することは新たな考え方や視点に気づかされ視野が広がることにつながるので、授業内外を問わず一つの事柄に対して自分なりの意見を持ち、それを他者と共有してより良く生きていくためのアイデアを考えていく場面を随所に散りばめていく必要があると感じた。

５　研究の成果と今後の課題

ICT を活用することで容易に自分の意見と他者の意見を共有し比較することができるため、今まで共有するために使っていた時間でより深い議論を行うことができると感じた。また普段自分の意見を伝えることをためらってしまう生徒もタブレット上であれば気軽に文字に起こすことができるので、話し合いだけだと常に積極的に発言している生徒の意見に収束してしまいがちだが多様な意見を踏まえて議論することができた。それらの多様な意見を図式化等の可視化ができることも ICT を利用する大きなメリットであると感じた。

一方で ICT を利用することの弊害もあり、教員側の指示とは関係のない作業をする生徒がいたときに制御しづらいという課題も浮かび上がった。またタブレット上で意見を出すことがゴールになってしまい、グループ活動の際に班によってはそれらを出し合っただけでそれらをもとに深い議論が行われないこともあった。今後は今回の研究を通して明らかになったメリット・デメリットを考慮し、ICT を利用することが目的にならないように、あくまで研究主題が達成させるための手段となるように ICT の可能性を探っていきたい。

６　参考文献

【教材資料・出典】

・『新しい道徳３』東京書籍

【参考資料】

・『中学校学習指導要領　特別の教科　道徳編　解説（平成 29 年告示)』　文部科学省
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_011.pdf

・『はばたく群馬の指導プラン II』群馬県教育委員会
https://gunma-boe.gsn.ed.jp/wysiwyg/file/download/506/937

・『はばたく群馬の指導プラン II』ICT 活用 Version　群馬県教育委員会
https://gunma-boe.gsn.ed.jp/wysiwyg/file/download/506/3559

・『子ども自ら気付き、深め、高める「特別の教科 道徳」の授業 II 「個別最適な学び」と「協同的な学び」の一体的な充実を目指した道徳授業の工夫』 東京書籍　東京教育研究所

道徳教育における学びを深める指導の工夫

― 1人1台端末の効果的な活用を通じて ―

渋川市立赤城南中学校　市川　孝純

〈研究のポイントはこれだ！〉

道徳教育における学びを深める指導
↑
1人1台端末の効果的な活用

〈導入〉	〈展開〉	〈終末〉
・アンケート	・回答共有　・ホワイトボード機能	・振り返りの蓄積

１　研究主題設定の理由

グローバル化の進展に伴い、生徒を取り巻く環境や社会の変化が著しい。変化に対応する力を生徒自身が身につける必要から、令和３年度からGIGAスクール構想が本格実施された。渋川市でも、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を実現する手立てとして、ICTを効果的に活用するよう推奨されており、子ども達が自分に合った学び方を選択し、友だちと考えを共有して、個に応じた幅広い学びにつながるようICTを活用する事が期待されている。

本校でも、授業の様々な場面で、ICTを活用、道徳の時間においてもタブレット端末を毎回使用している。しかし、道徳性を養うための手段としてタブレット端末を効果的に使用できているかといえば疑問である。そこで、道徳教育において学びを深めるために、タブレット端末を授業のどのような場面で、何のために、どのように使うことが効果的なのかを明らかにするため、本主題を設定した。

２　研究のねらい

道徳教育において学びを深めるために、タブレット端末を授業のどのような場面で、何のために、どのように使うことが効果的なのかを明らかにする。

３　研究内容

（１）道徳教育において「学びを深める」とは

道徳の授業の学びには、次の３つのレベルがある。

１つ目は、「状況理解レベル」である。授業で言えば、登場人物の行動や出来事など、教材に書かれている部分を理解する場面である。この状況の部分を子ども達が分かっていなければ、道徳科の授業はスタートしない。しかし、ここを授業のメインにすると、「小さな国語」の授業になってしまう。

２つ目は、「心情理解レベル」である。授業で言えば、登場人物は、どのようなことを考えたのか、あるいはどのような気持ちだったのかを皆で考える場面だ。登場人物の心情や心の中が教材に書かれている場合もあるが、この場合も含め、心の中を想像して考えさせる必要がある。「教材」という共通の土俵で、登場人物に自分を重ねて考え、意見を交流することで、心の中に話合いの中心を定めていく。ただし、授業が心情理解レベルに留まると、中教審の指摘した課題の１つである「登場人物の心情理解に偏る授業」になる。

３つ目は、「道徳価値レベル」である。授業で言えば、登場人物の感じたことや考えたことの中から、道徳的価値についての見方、感じ方、考え方を生徒自身が発見して、自分の言葉で表現して、交流する場面である。この場面でそれぞれの生徒から語られる色々な見方、感じ方、考え方から、生徒達が「納得」と「発見」の実感を得られることを、学びを深めることだと捉える。

（２）活用場面
①導入場面
(a)アンケートの実施
　Google フォームを使用。アンケート結果が自動で集計され、結果がグラフで表示される。生徒の実態把握や導入における価値の方向付けに活用できる。主人公の弱さが表れている状況と、自分達が道徳的価値に基づいた行動ができていない状況と照らし合わせることで、主人公の心情や心の中を自分事として捉えることが期待される。

②展開場面
(a)回答共有（瞬時に立場の違いを明確にする）
　オクリンクを使用。「主人公の考えに賛成か反対か」「自分だったらできるかできないか」など、自分の立場について問う際に、ムーブノートで立場ごとに色の違うカードを提出して回答共有する。カードを回答共有することにより、友達の意見を自分のタブレットで見ることができ、「自分と同じ立場の人がこんなにいる」「〇〇さんは、自分と違う立場だ。何でだろう」といった思いを、同じ立場の人と考えを交流したり、違う立場の人の考えを聞いてみたりする活動につなげることができる。話し合いの前後にカードを提出させることで、生徒の考えの変容を見とることができる。
(b)ホワイトボード機能を活用した話し合い（それぞれの意見を比較・分類・統合する）
　Google ジャムボードを使用。メモや付箋を追加したり、さまざまなデジタル教材を取り込んだりして、協働的な学びに活用できる。すべての生徒に同時に発言権を与えること、他のグループの話し合いにも参加できることが利点。背景に思考ツールを貼ることができ、様々な話し合い活動に応用できる。生徒が個々に考えた意見を比較、分類、統合することで、「納得」と「発見」の実感が得られる話し合いができるツールとなることが期待される。

③終末場面
(a)振り返りの蓄積
　Google フォームを活用。毎時間、同一のフォームを使用し、スプレッドシート上にデータを蓄積していく。学びの記録としての振り返りを累積することによって、生徒自身が自分の学びを俯瞰することが期待される。学級の実態に応じて、振り返りの内容を生徒同士で閲覧することも可能である。

４　実践の概要
（１）授業の視点
　意見を交流させる場面において、ジャムボードの付箋機能を活用して、生徒の多様な意見を引き出し、意見を比較・分類・統合させたことは、自己受容・自己理解を深め、充実した生き方を求める態度を育むことに有効であったか。

（２）主題名　　自己を見つめる　（内容項目　Ａ（３）向上心、個性の伸長

（３）資料名　　「自分」ってなんだろう（「あすを生きる２」日本文教出版）

（４）主題設定の理由
①ねらいとする道徳的価値について
　本主題は、学習指導要領のＡ（３）向上心、個性の伸長「自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること」をねらいとする。
　人は誰しもが他者から認められたい、褒められたいという欲求を持っている。一方で他者と比較して劣等感に思い悩むことや、他者との違いから不安を感じることもある。そのため、短所と感じる部分でも見方を変えて磨くことで、輝く個性になり得ることに気づかせるのは重要である。自分を輝かせるのは、誰でもない自分であることを気づかせ、自分を向上させようとする態度につなげたい。

②生徒の実態について
　生徒達は中学校２年生という多感な時期にさしかかっている。理想を求める気持ちがある反面、現実の環境への反抗や反発を示す。自分を肯定的に見るよりも否定的に見る傾向が見られる。自分の長所を挙げさせるような場面でも、他人と比較し、自分なりの良さを表現できずにいる生徒も見られる。しかし、それらは「よりよく生きたい」という願いの裏返しでもあり、価値のある自分を発見するための模索でもある。自分の良さは、自分では分からないことが多いため、生徒同士でお互いの良さを発見し、認め合う体験をすることで一人ひとりが自信を持って個性を伸ばし、充実した生き方ができるように指導したい。

③教材について
　自分の存在価値を自問しながら生きる「ブタ」の姿が４コマ漫画の中に描かれている。漫画のキャラクターから問いかけて考えたことを、「ありのままの自分」という文章で再確認できる。また、「他人との比較ではなく、かけがえのない自分」の存在に気づくことが期待できる教材である。

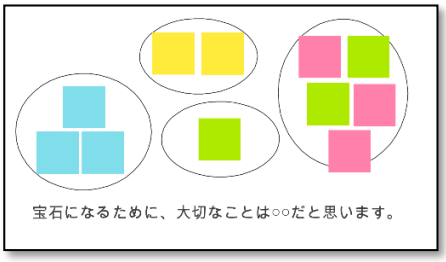
（５）指導方針
①ジャムボードを活用する。
・匿名で記入させることで本音を引き出せるようにする。
・付箋機能を活用することで、作業時間の短縮し、話し合い時間を確保する。また、ラベリング機能や修正機能などにより意見の比較・分類・統合を円滑にし、ふりかえりをする際、様々な意見や視点を確認することを可能にする。
②考えが浅くなる場合には、揺さぶりの発問を入れる。
　（例）いつ、いかなる時もありのままの自分を出している人はいるか。
　　そのままで宝石ということは、何もしなくて良いのか。

（６）本時の学習
①ねらい
　人それぞれ必ず持つ、固有の良さの発見に努め、自己受容・自己理解を深め、充実した生き方を求める態度を育む。

②準備
教師：教科書、端末、ワークシート、ラジカセ、メッセージカード
生徒：教科書、端末、ワークシート

③指導過程

	学習活動（発問、予想される生徒の反応）	指導上の留意点
導入 ５分	１　自分の良いところを考える。 発問〇あなたのよいところを考えてみよう。 ・ない　・元気　・明るい ２　めあての提示 「自分について考えよう」	〇発言させるのではなく、落ち着いた雰囲気の中で自分のことを考えさせる。
展開 １ １ ５ 分	３　教材「『自分』って何だろう」を読み、教材の内容を整理する。 発問〇筆者が言う二人の自分とは何か。 ・ありのままの自分 ・見てもらいたい自分（ありもしない・みせかけの自分） 発問〇なぜ、ありもしない自分をつくるのか。	〇いつ、いかなる時もありのままの自分を出している人はいるか問いかけることで、教材を自分事として捉えさせる。 〇ありもしない自分をつくってしま

	・嫌われたくない。・好かれたい。・馬鹿にされたくない。 ・ありのままの自分は、信頼できる人の前だけ出せる。 発問〇筆者が、若い頃、劣等感を持っている時、心に響いた言葉は何か。 ・あなたは、そのままで宝石だ。 発問〇そのままで宝石ということは、何もしなく良いのか。 ・努力が必要である。・	う理由をジャムボード（クラスで１枚）に記入させる。匿名で記入させることで本音を引き出せるようにする。 〇家族や親友にとって、生徒一人ひとりはかけがえのない一人として不動の存在であることを伝える。
展開 ２ ２ ５ 分	４　自分が宝石になるために大切にしたいことを考える。 **発問〇自分が宝石になるために、大切にしたいことは何だろう。** 〈個人〉 ①ジャムボードの付箋機能を使用して、自分の考えを書く（各班１枚、計９枚）。 ・自分の良いところを知る。 ・自分の良いところを伸ばす努力をする。 ・自分を表現する強さ ・自分の弱さを知る。 ・自分の弱さに向き合う。 ・自分の弱いところを直す努力をする。 ・信頼できる人との出会い。 ・自分の良さを出せる環境。など 〈グループ〉 ②ジャムボードの付箋を動かしながら、生徒が個々に考えた意見を比較、分類する。 ③自分が宝石になるために大切なことを班ごとに記入する。 〈全体〉 ④各班の代表者が③宝石になるために大切にしたいことと理由について発表する。９班すべてが発表する。	〇話し合いの進め方【①自分の付箋の色を決める。②友達の考え（付箋）は否定しない。③友達の考え（付箋）について質問をする。③みんなの考えをグループ分けして整理する。】に従って、話し合いをするように伝える。 〇自分の意見が書けない生徒は、友だちの付箋を参考にしながら書いても良いことを伝える。  〇学びのレベルを「道徳価値レベル」まで到達させるため、宝石になるために大切なことは〇〇である。の〇〇に入る言葉を考えさせる。また、なぜ、そう思ったのか理由も書かせる。
終末 ５ 分	５　自分の良さが書かれたメッセージカード（前時に準備）をもらう。 ６　本時の学習のふりかえり 発問〇この時間で学べたことを書いてみましょう。 ・自分自身を見つめて、良さを伸ばしたり、弱さを受け入れたりして、成長していきたい。 ・自分には、〇〇な良さがあることに気づいた。この良さを努力して磨いていきたい。 ・お互いの良さや弱さが認め合える環境だと、みんなが成長できそうだ。	〇友達から自分の良さを伝えてもらうことで、自分の良さの発見に努め、充実した生き方を求める気持ちを高められるようにする。 〇自分の班のボードや各班のボードを見ながら、ふりかえりをすることで、話し合いの効果を最大限に生かすようにする。

④評価の観点

・自分には自分のよさがあり、自分に自信を持とうとする発言や記述が見られたか。

（7）　板書計画

「自分」について考えよう
ありのままの自分
ギャップ
ありもしない自分
心に響いた言葉
↓　あなたはそのままで宝石
そのままで良い？
かけがえのない1人
他人と変わることはできない
宝石になる努力をする。

考えよう

自分が宝石になるために、
大切にしたいことは何だろう？

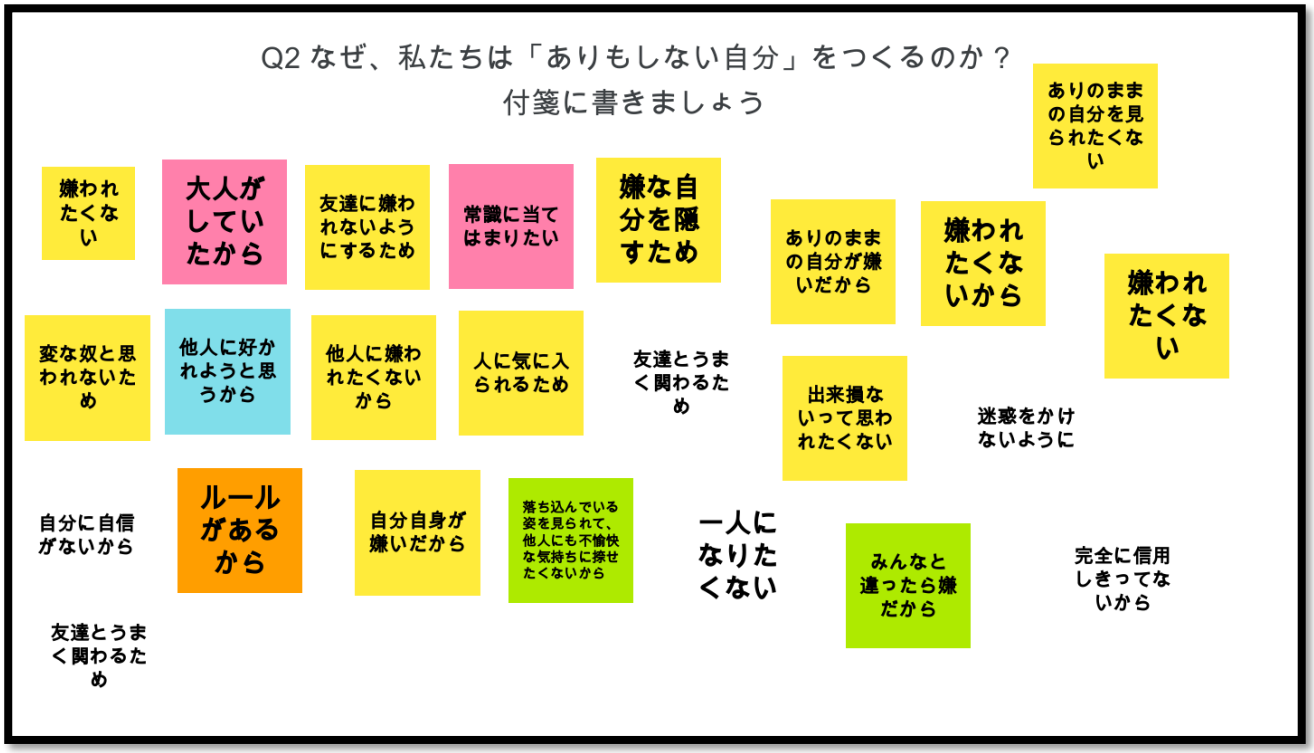
発表の約束
①付箋の色を決める。②友達の考え（付箋）は否定しない。③友達の考え（付箋）について質問をする。③みんなの考えをグループ分けして整理する。

ふりかえり

5　研究の成果と今後の課題

①研究の成果

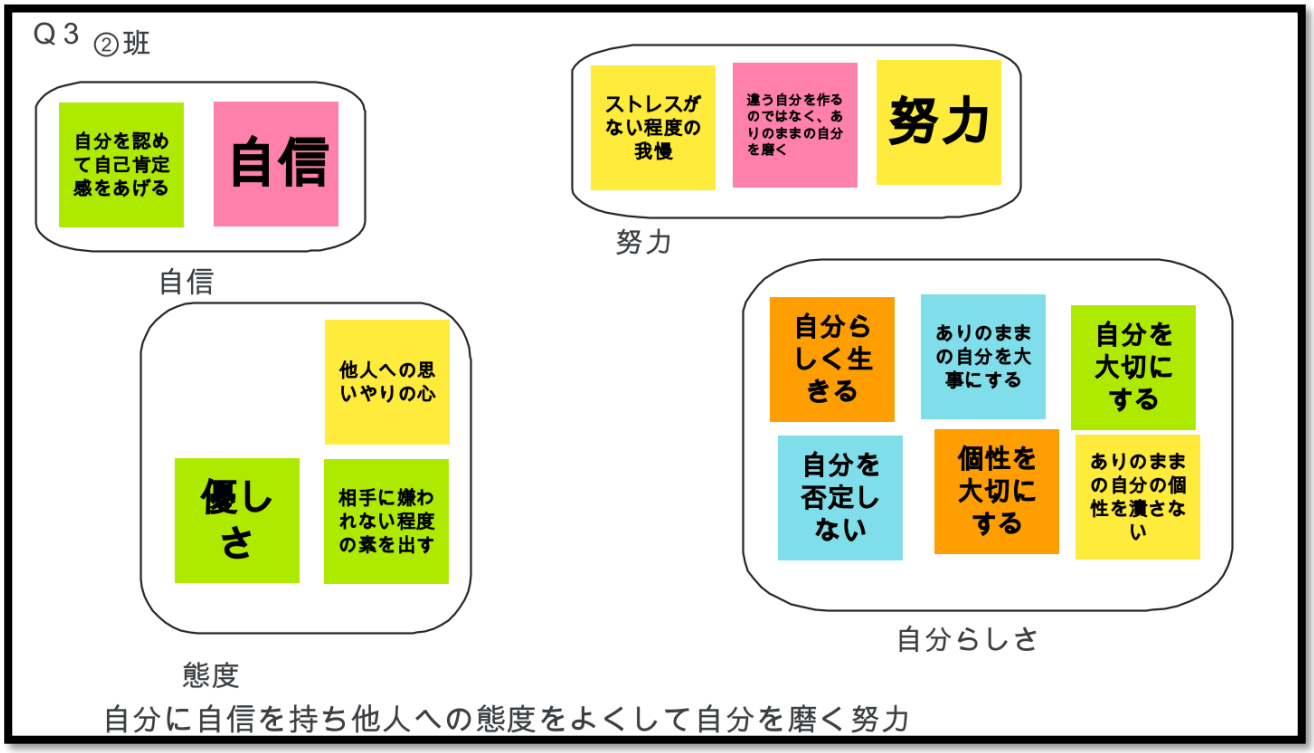
(1)「ありもしない自分」をつくってしまう理由をジャムボードに匿名で記入させることで、生徒の本音を引き出すことができた。授業後の感想では、「完全に信用しきっていないという意見を読んで、同じ事を考える人がいる」や「みんなも自分も、ありのままの自分をだせるクラスにしたい」との意見が見られた。本音を出させたことで、学習内容についてより深く考えようという意識を持たせることができた。



(2) 意見を付箋に記入させることで、修正や移動が容易になり、手書きと比較して作業時間が短縮した。その分を、グループワークの活動時間に当てることができた。

(3) 自分の意見を書くのが難しい生徒も、友達の意見を見ながら付箋を書くことができた。

(4) ラベリング機能や修正機能などにより意見の比較・分類・統合を円滑にし、様々な意見や視点を見える化することができた。



(5) 自分の班や各班の意見を基にして、多様な視点から振り返りを書くことができた。
(生徒の意見)「最初は自分の良いところを見つけることができなかったけれど、皆の意見やメッセージカードをもらって、自分では気づくことができないことに気づけた。自分も認めて、相手のことも認めることが大切なんだなと思った。しっかり他者からの意見を受け入れるのも大切にしたい」

②今後の課題
(1) ラベリング機能や修正機能などにより意見の比較・分類・統合をした後、話し合い内容をさらに深められると良い。「自信を持つ」「ありのままの自分でいる」「人の目を気にしない」等の意見が出されたが、それができないから苦しんでいるので、それに対してどのようにすれば良いのか問いかけても良かった。また、議論をする力を養うためには、話し合いをする機会を増やすだけでは不十分。話方や見本を示して、議論の仕方を教えることが必要である。
(2) 個人の意見を書く場面では、書いた意見が瞬時に共有されるため、他人の目を気にして意見を記入している生徒も見られた。題材によっては、アナログのワークシートに個人的に記入をさせて、授業者が意図的な指名を行う方が効果的な場合があり、ICT を活用する題材を適切に選択する必要がある。
(3) 実態に合わせた指導の難しさが見られた。グルーピングやラベリング等は、共通の意識を探る必要があるため、難易度が高い。また、考えを言語化して表現することも難しい。段階的に繰り返し実践することが求められる。
(4) 発表の概念を授業側が見直す必要がある。ジャムボードに書かれていることを、そのまま読むなら発表の必要がない。授業者が意図的な発表や問い返しなどをすることで、学習内容が深まる。

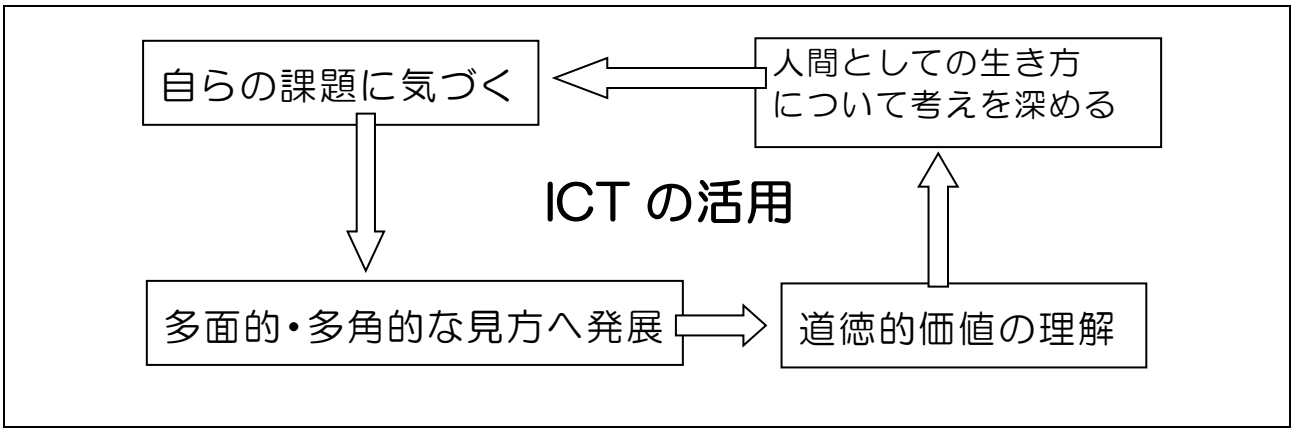
6　参考文献
【教材資料・出典】
・島恒生『納得と発見のある道徳科』日本文教出版（2021）
・『道徳教育 2023 年 5 月号』明治図書（2023）

タブレット端末を活用した効果的な授業実践

～ICT を活用する意味のある道徳授業～

館林市立第四中学校　飯塚　淳子

＜研究のポイントはこれだ！＞
道徳科における「主体的・対話的で深い学び」を実現する ICT の活用



1　研究主題設定の理由

一人一台端末をもち、様々な教科で ICT を活用して授業が行われており、特別な教科道徳においても ICT は活用されている。手段である ICT の活用の工夫が授業の目的となってはいけない。学習指導要領」改訂の基本方針である「主体的・対話的で深い学び」を道徳科で展開し、生徒が授業を通して自分の考えを、多面的・多角的な見方へと発展させて、道徳的価値を理解できるようにするための ICT 活用の仕方を研究するため、上記のテーマを設定した。

2　研究のねらい

「主体的・対話的深い学び」を実現するために必要なこととして、三つの視点を ICT の活用と関連させる。視点①生徒が自己を見つめ自らの課題に気づくこと。視点②多面的・多角的に考えに触れることで道徳的価値の理解を深めること。視点③人間としての生き方について考えを深めること。

3　研究の内容

学習指導過程で活用する ICT ツール（（１）ハートメーター・（２）ロイロノート・（３）メンチメーター）を、上記の視点①～③で活用する。ツールを授業の導入と終末にかならず使用する。

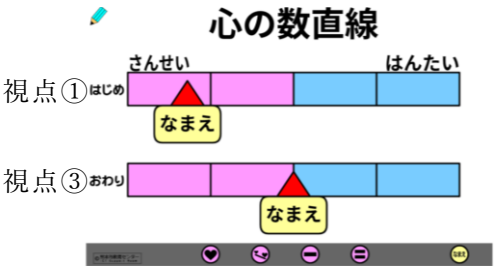
4　実践の概要

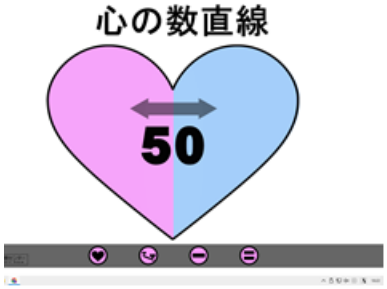
（１）ツール：ハートメーター

題材：「麻依の苦悩」４月

友達に宿題を見せない方がいいか、見せた方がいいかをハートメーターを使って説明し合う。授業前の考え（視点①）と、授業で様々な意見に触れた後（視点②）の考えを見比べることができた。(視点③）また、なぜそのように考えが変わったかを、視覚的に比較しながらわかりやすく説明をすることができた。Yes,No とはっきりした答えを出せない問題

での心の状態を表すことに適している。





（２）ツール：ロイロノート

題材：「和食」の良さって何だろう～心でいただく伝統の味～　１学期

１学期あらかじめ授業前にアンケートなどをとらず、授業の導入で意見を集約できた。（視点①）和食が好き：青　洋食が好き：黄色　のように付箋で色分けをした。簡単に理由を書き、教師は机間巡視することなく、意見を見て意図的指名を行うことができる。このツールは和食か洋食かといった簡単な問いに適している。クラスに公開すべきでない場合は、共有せずに教師のみが、確認するなど配慮が必要である。授業の中で見方考え方が広がり（視点②）最後に意見を出し合った。和食の良さを受けついでいくにはどうすればいいかを、アイデアを出し合い、多様な意見を一度に見ることができた。（視点③）興味を持った意見に質問をすることができた。

視点①

視点③

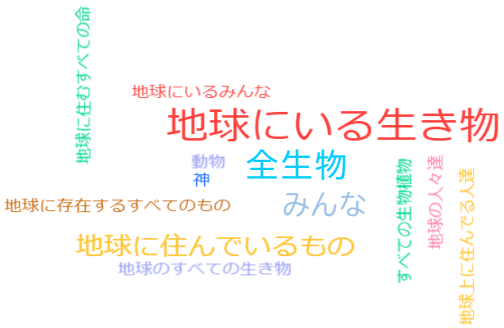
（３）ツール：メンチメーター

題材：「敬意をもって自然と接する」～夜は人間以外のものの時間～　２学期

学習前の考えを知るため、「この地球の主役は？」と言う問いを投げかけた。同じ意見の文字が大きくなるため、視覚的に地球は自分たちの物だと考えていることがわかった。（視点①）本時のまとめの前に、もう一度「この地球の主役は？」という問いをなげかけた。（視点③）授業前と授業後の考えの変化を視覚的にとらえることができ、その考えにいたった理由を話し合うことができた。

視点①

視点③



5　研究の成果と今後の課題

主体的に学ぶためには視点①（生徒が自己を見つめ自らの課題に気付くこと）が必要になり、教師は事前にアンケートをとるなどして準備が必要であったが、ICT を活用することで授業の導入でライブ感をもって行うことができた。視点②（多面的・多角的に考えに触れることで道徳的価値の理解を深めることという）においては、様々な考えに触れる必要があり、ICT を活用することで、なかなか発言をできない生徒の意見を共有することができ、グループの話し合いの場面で、スムーズに意見を共有することができ、対話的な学びを行うことができた。視点③（人間としての生き方について考えを深めること）では、授業の導入で見つかった自らの課題を最後にもう一度考え直すことで、その変容を視覚的にわかりやすくとらえ、自覚することができた。ICT は、生徒一人一人が道徳的価値の理解を深めるためのツールである。教師がこれまで行ってきた工夫を活かしながら、ICT の可能性を試していくことで新たな気づきがある。ICT の活用の工夫が授業の目的にならないように配慮をする必要も感じた。様々なツールをどこに、どのように活用をすると効果的かを考えて ICT を活用することで指導の可能性を広げることができる。

6　参考文献

【教材資料・出典】

・『新訂　新しい道徳２』東京書籍

【参考資料】

・『中学校学習指導要領　特別の教科　道徳編』文部科学省

・『子どもが自ら気づき、深め、高める「特別の教科　道徳」の授業Ⅱ』　東京書籍　東京教育研究所

「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業改善

ー特別の教科　道徳の指導におけるICTの活用を通してー

高崎市立箕郷中学校　田島　尚

＜研究のポイントはこれだ！＞

「考え、議論する道徳」の実現

ICT の活用
タブレット端末で自分の考えを示し、学級全員の考えを瞬時に共有

＋対話

GIGA スクール構想

1　研究主題設定の理由

中学校学習指導要領に示されている道徳科の目標は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」である。道徳科では、答えが一つでない道徳的な課題を一人一人の子どもたちが自分自身の問題と捉え、向き合う、「考え、議論する道徳」への転換、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの改善が求められている。指導に当たっては、道徳の目標に示されている学習活動に着目し、より効果的に行われるようにするための手段として、ICT の活用が求められている。コロナ禍での GIGA スクール構想の急速な進展により、高速大容量の通信ネットワーク整備が進み、生徒１人に１台のタブレット端末が配付されたことで、瞬時に学級全員の考えを共有することが可能になった。この最大のメリットを生かした授業実践を重ねることが、将来的に生徒の道徳性を育むことにつながるのではないかと考え、本主題を設定した。

2　研究のねらい

道徳科の授業におけるタブレット端末の効果的な活用方法を明らかにしていく。

3　研究の内容

文部科学省が作成した「特別の教科 道徳の指導における ICT の効果的な活用に関する解説動画」では、下記に示す活用例を紹介している。本研究では、タブレット端末の活用に焦点を当て、実践を通して、その効果について検証していく。効果の検証方法として、授業後にアンケートをとった。

道徳科の学習過程での ICT の活用例（**太字**はタブレット端末に関する活用例）

段階	学習の目的	主な学習活動	ICT の活用例
導入	・実態や問題を知る。	・道徳的価値について、問題意識をもつ。	・実態や問題の提示 （画像や映像、グラフ等）
展開	・教材を活用して、道徳的価値を理解し、よりよい生き方を考える。	・自分自身との関わりで考える。 ・多面的･多角的に考える。 ・人間としての生き方について考えを深める。	・教材の提示 （画像や映像等） **・自分の考えをもつ** **（端末に示す）** **・他者の考えを知る** **（端末で共有する）** ・話し合う（対話） **・自己を見つめる** **（タブレットに蓄積する）**
終末	・よりよい生き方の実現への思いや願いを深める。	・道徳的価値についての自己実現への意欲を高める。	・生活の様子の提示 （画像や映像等） ・外部の方の言葉の提示 （画像や映像等）

4　実践の概要

（1）主題名　誰もが気持ちよく過ごせる社会を目指して〔C－10 遵法精神、公徳心〕

（2）教材名　「ごみ箱をもっと増やして」　（出典：「新しい道徳１」東京書籍）

（3）本時の学習

①ねらい

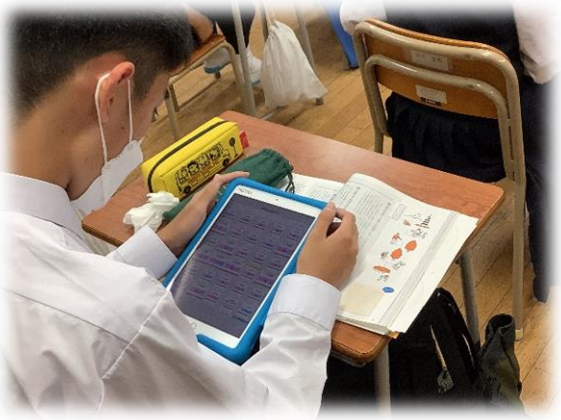
街の中にごみ箱を増やすかどうかの話し合いを通して、公徳心について理解を深め、誰もが気持ちよく生活できるよりよい社会の実現のために努めようとする態度を育てる。

②準備

教師：教科書、タブレット、ワークシート

生徒：教科書、タブレット

授業の板書



タブレットで他者の考えを知る様子

振り返りをワークシートに記入する様子

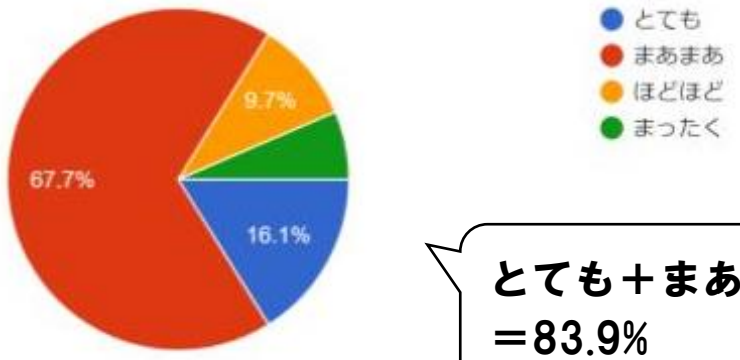
③展開

過程	○主な学習活動 ・予想される生徒の反応	時間	・支援・指導上の留意点 ☆支援を要する生徒への手立て
導入	**1 ごみ箱に関する自分の経験などを振り返る。** ○街の中のごみ箱について、気がついたことや困った経験をしたことはないか。 【めあて】きまりを守り、誰もが幸せな社会にするために何が大切だろう。	5分	・隣の生徒と話し合わせる。 ・互いの経験を出し合い、他の生徒の経験にも耳を傾けるようにする。
展開	**2「ごみ箱をもっと増やして」を読んで話し合う。** ○投書の意見に賛成か反対か。 ・心の数直線を使って自分の考えを表す。 ○A さん、B さん、C さんの意見とその理由は何だろう。 ・A さんは賛成。理由はきれいな景観を維持するため。 ・B さんは反対。景観が壊れるし、回収費がかかるため、ごみは自宅に持ち帰ろうと言っている。 ・C さんは環境を守るため、設置に反対している。 ○日本のごみ箱を増やすことに賛成か反対かについて、その理由をふくめて考える ・賛成。ごみがあるときにすぐに捨てられるから。陰でのポイ捨てがなくなる。 ・反対。自分のごみを持ち帰ることはマナーだから。 **3 よりよい社会にするためにルールやきまりの在り方を考える。** ○だれもが気持ちよく生活できる、よりよい社会にするために、ルールやきまりはどのようにあるべきか、考える。 ・より多くの人が気持ちよく過ごせるものであるべき。 ・社会をよりよくするためのものであるべき。	5分 5分 5分 12分 13分	・「ごみ箱をもっと増やして」を範読する。 ・本時ではごみ箱を増やしたほうがよいかどうかについて話し合うことを確認する。自分の考えの根拠まで考えることを伝える。 ・ピンク色は賛成、青色は反対の気持ちとし、自分の考えの度合いを表すように促す。 ・ペアになり内容を確認する。何人かに発表をさせて、全体で確認する。 ☆分かりやすく板書をして確認できるようにする。 ・「話し合いの手引き」（教科書 p.3）を参照し、話し合いの進め方を確認する。 ・机間指導をして、全員が発表しているかを確かめ、声かけをする。 ・他の生徒の意見もワークシートに記入するよう促す。 ・何人かの生徒に発表してもらう。
終末	**4 本時のまとめをする。** ○今日の学習を振り返り、学んだこと、考えたことをワークシートに記述する。	5分	・ワークシートに書いたことを、数人の生徒に発表してもらう・

（4）授業アンケート

1．心の数直線の結果を見て、授業への興味・関心が高くなった。

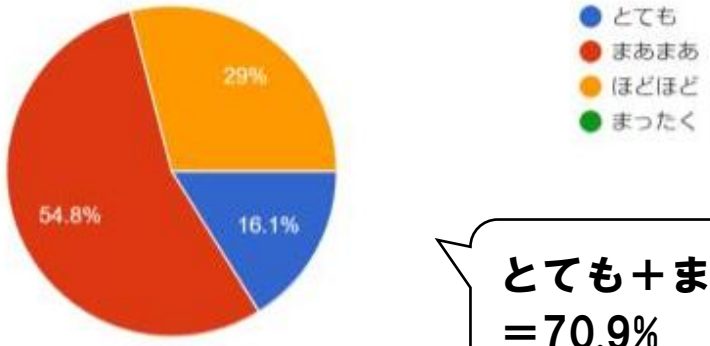
31 件の回答



とても＋まあまあ＝83.9%

2．タブレット端末を使わないときと比較し、たくさん意見が言えた。

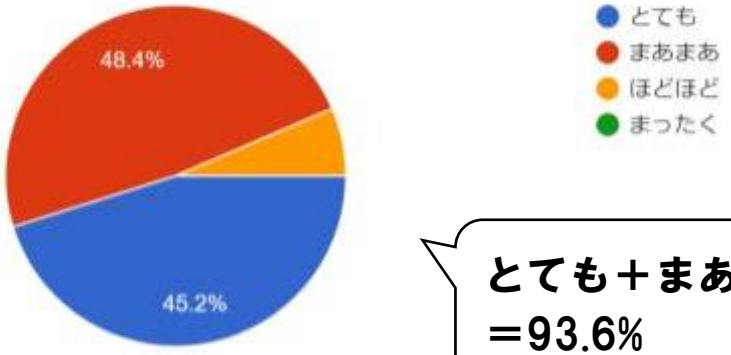
31 件の回答



とても＋まあまあ＝70.9%

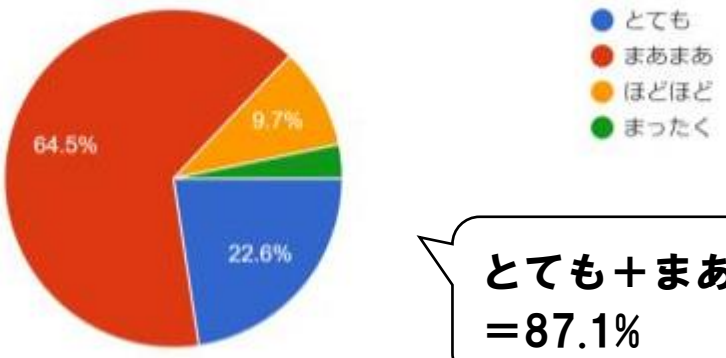
3．タブレット端末を使わないときと比較し、友達の意見をたくさん聞けた。

31 件の回答



とても＋まあまあ＝93.6%

4．タブレット端末を使わないときと比較し、友達の意見で自分の考えが深まった。
31 件の回答



とても＋まあまあ＝87.1%

5．タブレット端末を使わないときと比較し、深く考えることができた。
31 件の回答

とても＋まあまあ＝87.1%

6．タブレット端末を使わないときと比較し、楽しく授業に参加できた。
31 件の回答

とても＋まあまあ＝80.7%

5　研究の成果と今後の課題

（１）研究の成果

・タブレット端末と心の数直線を利用することによって、学級全員の考えを可視化でき、話し合い活動を促すことができる。

・デジタル教材は、簡単に導入することができるので、教材準備の負担を軽減することができる。

・瞬時に学級全員の考えが共有でき、話し合いがすすめられるので、終末の時間を十分に確保することができる。

（２）今後の課題

・生徒の考えが可視化されることによって、生徒同士の話し合いを活性化させることができるが、その際にどんな発問をするか、よく吟味しておく必要がある。

・タブレット端末を操作する場面設定やタブレット活用のルールなどを明確化しなければ、タブレット端末自体が授業への集中を妨げる要因になりかねない。

・発表に対して困り感のある生徒が、意見を伝える際の補助具としての活用法について、検討していきたい。

6　参考文献

【教材資料・出典】

・『新しい道徳』東京書籍

【参考資料】

・『新しい道徳 指導書』東京書籍

・特別の教科 道徳の指導におけるＩＣＴの活用について
https://www.mext.go.jp/content/20201113-mxt_jogai01-000010146_011.pdf

・山田貞二『中学校道徳授業　発問・言葉かけ大全』明治図書（2022）

・デジタル教材『心の数直線』
http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/kyouzai/web/Heart-meter3/Heart-meter3_manual.pdf

高崎市の実践例

1　片岡中学校での実践

2　中尾中学校での実践

3　榛名中学校での実践

人権集会

提案者	生徒会担当教諭 生徒会本部役員

1．ねらい　○人権集中学習期間に伴い、全校生徒の人権意識の向上を図る。
　　○いじめ防止の観点から、傍観者の役割を考え、正しい行動について考えを深める。
　　○異学年との交流を図る中で人権意識の向上を図る。

2．期　日　令和５年 12 月 13 日（水）５・６校時

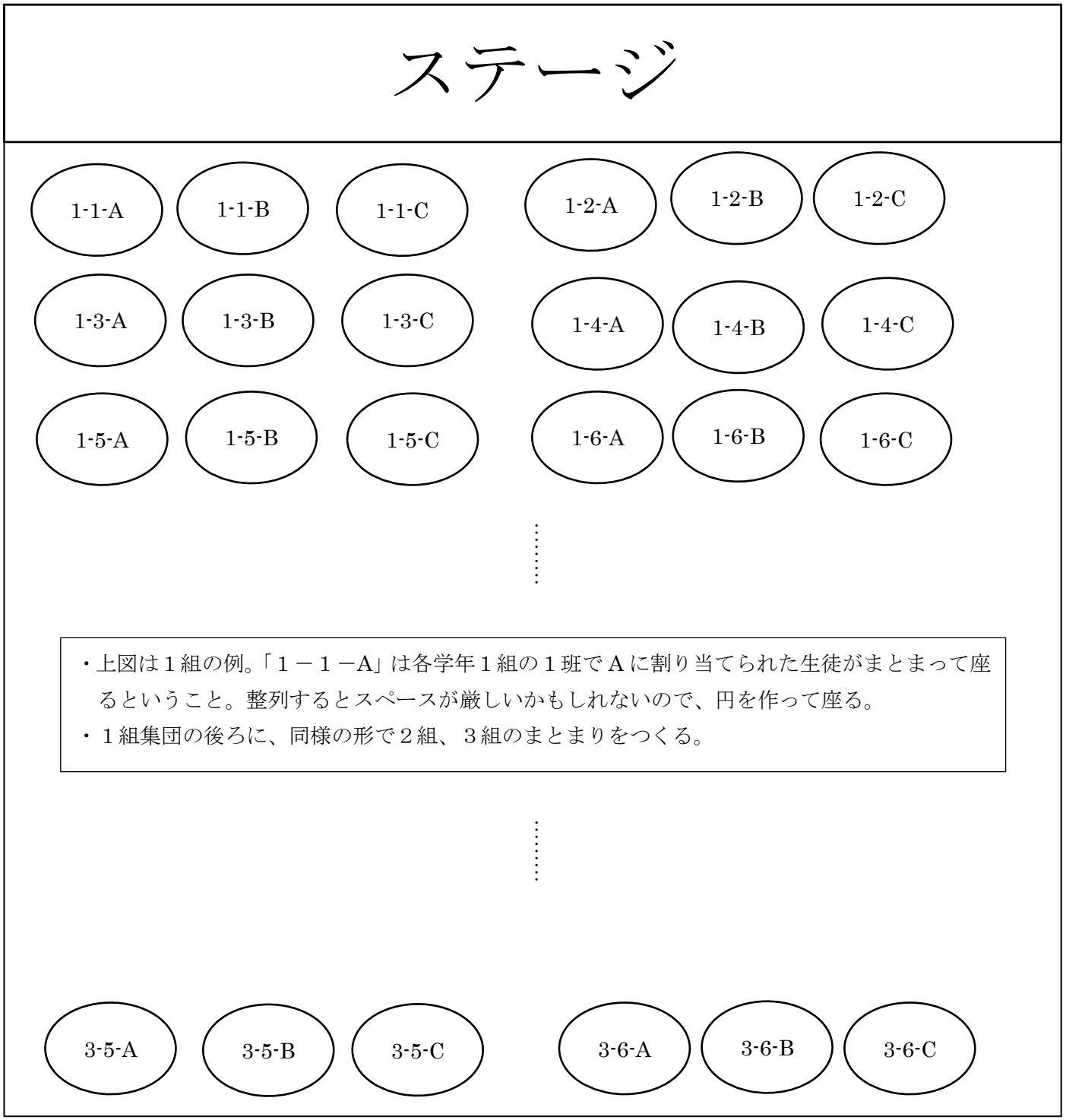
3．場　所　体育館

4．準　備　カラーコーン、ワークシート、筆記用具、プロジェクター

5．授業の展開

時間	展開（生徒の活動）	備考
25 分	○はじめの言葉 ○人権ビデオを視聴する。	・内容は傍観者について
10 分	○予め決められた場所（下記会場図）へ移動し、小グループをつくる。 グループができたら自己紹介を行う。	
15 分	○生徒会本部役員が行う劇を見る。 ○休憩	
5 分	○劇の中で傍観者ができることについて意見を書く。	
15 分	○小グループの中で発表を行う。 ・２年生が司会をする。 ・１年生から発表を行う。 ・３年生は反論（でも、○○のように言われたら？）を行い、意見を深められるようにする。　※劇化する際に重要！ ・小グループで意見をまとめ、ワークシートに記入する。	・先生方は自分のクラスの生徒がいる小集団を中心に見回り、良い意見があればピックアップし、全体発表を促して下さい。
10 分	○全体に向けて発表を行う。 ・５つ程度良さそうなものを紹介する。	・発表マイクは本部役員がもっていく。
10 分	○発表した案の中から１つを選び、即興で劇にする。 ・５つの班の中から即興で劇ができそうな班の意見を採用する。 ・その班の２年生がステージ上で本部役員と即興で劇を行う。	・即興で劇にする意見の最終選定は中里が行う。
5 分	○ワークシートに振り返りを記入する。	
5 分	○クラス毎に整列し直す ○閉会の言葉	

６．会場図



先生方へのお願い

当日までに、生活班の中で「Ａ・Ｂ・Ｃ」の割り当てを決めておいてください。「Ａ・Ｂ・Ｃ」につき、２人ずつが基本ですが、欠席等の状況に応じて最低１人は割り振れるようにお願いします。

また、当日はカラーコーンを配置する予定ですが、生徒には自分の班と、おおよその位置を把握しておくよう、お伝え下さい。

７．ワークシート

人権集中学習　ワークシート

（　　）年（　　）組（　　）番　名前（　　）

１、本部役員が行った劇を見て、「傍観者」はどんなことができただろう。
自分の意見を書きましょう。

２、小グループで話し合いを行い、傍観者にできる一番良い方法を考えましょう。
☆２年生が司会をし、１年生と３年生に意見を求めましょう。（自分も意見を言う）
☆３年生は１，２年生の意見に対し、「〇〇と言い返されたら？」等の反論を投げかけ、小グループの話し合いを深められるようにしましょう。

メモ（自分と異なる意見や、反論とその返し方）

３、傍観者ができることとして、班でまとまった意見を書きましょう。

最初の対応

予想される反論

反論に対する対応

４、今日の授業を通して、考えたことや、これから自分にできることを書きましょう。

５．授業の展開（全体で集まれない場合）

時間	展開（生徒の活動）	備考
5 分	○担任から今日の流れの説明をする。 １、生徒会の劇の映像を見る。 ２、劇の内容から対応方法を考える。 ３、クラスで意見をまとめる。 ４、クラスの意見を大きい紙に書き、掲示用のものを作成する。	※作成したものは後日掲示予定
5 分	○生徒会本部役員が行う劇の動画を見る。(動画は撮影済みの物を事前に配布予定) ○ワークシート配布	
10 分	○机を班の形にする。 ○劇の中で傍観者ができることについて意見を書く。	
10 分	○グループの中で発表を行う。 ・反論（でも、○○のように言われたら？）を行い、意見を深められるようにする。　※劇化する際に重要！ ・小グループで意見をまとめ、ワークシートに記入する。	・クラス毎の進行になるので、この辺りの時間配分は各担任の先生にお任せします。
15 分	・記入した意見をクラス内で発表し、１つ採用して、大きなワークシートに書く	・全体の司会は学級役員が中心で行ってください。
5 分	・振り返りを記入する	

道徳科学習指導案

令和４年１０月１７日（月）
第４校時　１年１組教室
１年１組　指導者　金井義明

【授業仮説】

防災を学習する場面において、生徒が文章や写真から自然への畏敬の念を持つことによって、災害を受け入れ、準備する態度を培うことに有効であろう。

Ⅰ　主題名　自然の力と向き合って【内容項目　Ｄ（２１）感動、畏敬の念】
資料名　「火の島」『新しい道徳１』ｐｐ.１３２～１３７
「自然災害大国日本（災）」『未来の授業　私たちのＳＤＧｓ』ｐｐ.５６～５７

Ⅱ　考察

１　生徒の実態（男子１４人、女子１９人　計３３人）

都市化の波で、自然の景観が失われつつある今日であるが、自然教室などに代表されるように、自然との関わりの大切さは学校において指導している。本校では１０月に校外学習が行われる。野鳥の森などを散策する日程が組まれている。そこで日ごろの生活では関われない環境で、自然を五感を使って体験してもらう。その後体験したことを新聞づくりでまとめて、心に残す指導をする予定である。

生徒は、自然や人間の力を超えたものに素直に感動する心を持っている。この時期に、美的な情操を深め、感動する心を育てることは、豊かな心を育み、美しいものや気高いものを謙虚に受け止める態度を高めていくことにつながっていく。また、自然災害に対しても、ただ恐れるだけではなく、謙虚に受けに止め、日ごろから自然の現象に対してどう対応したらいいか考えるきっかけになるだろう。

２　教材観

本教材では、キラウエア火山の火山活動の様子を捉えた写真には、目を奪われるほどの迫力があり、地球が生命体として息づいていることが感じられるだろう。生徒の生活とはかけ離れているが、作者は撮影の際の様子をこと細かに文章に表現しており、実感を持って読み進めることができる。

そうした自然の大きな力の中で生きていることを自覚したとき、自然に対しての畏敬の念を深めることができるであろう。地球誕生の神秘さや、人間の力の及ばないものへの畏れや敬いを考えることができるであろう。

３　校内研修との関わり

今年度の研修主題は、「他者との交流から自分の考えを深められる生徒の育成～学習過程スタンダードにおける集団学習場面の工夫を通して～」であるが、本時で扱う道徳教材の主人公

に共感しながら自分の考えをクラス全体で共有する。他の生徒の意見を参考にしながら、自分の考えをまとめることができる。

Ⅲ　指導方針

・自然への畏敬の念から、災害を忌避するだけでなく、受け入れる精神も持たせる。
・振り返りはクラスで発表し、共有していくことで、他の人の意見にふれて自分の考えを深める機会にする。

Ⅳ　本時の学習

1　ねらい　大自然の壮大さに触れ、人間としての在り方を見つめ直すことで、自然を畏れ敬う心を育てる。また、災害についても自然と人間の必然的な関係として捉え、自然との共生の仕方を考えさせる。

2　準備　生徒：教科書　　教師：ワークシート

3　展開

過程	学習活動 ・予想される生徒の反応	時間	支援・指導上の留意点 ・支援を要する生徒への手立て
導入	1．教科書の写真から、人間を超越した自然の力を実感する。 ①教科書の写真を見て、どのようなことを感じるだろう。 ・決して近づけない激しさ、壮絶さ、怖さを感じる。 ・壮大な光景であり、むしろ美しいと思う。		○写真から受ける第一印象を大切にする。
展開	2．「火の島」を読み、自然と人間の関わりについて話し合う。 ・「火の島」を生徒が丸読みする。 ①身の回りに、自然はどのくらいあるだろう。 ・ほとんどが自然である。 ・半分くらい自然が残っている。 ・建物や道路などが多く、自然はほとんど見られない。		○自然と人間（人工物）の関係性に気づくように、心情円で表した自然以外の部分が何かを問う。 ○地球とともに人間が生きているということに気づくように、日本の地理を考える。

	② 作者が「絶対に忘れられない感動な１日になった」と言うのは、どうしてだろう。 ・今まで経験したことがないほど、火山活動のすごさに心を奪われたから。 ・地球上で最も神聖な場所に来たから。 ・とても苦労したが、苦労が報われたと感じたから。		○作者が自然の力と向き合って体験した感動を多角的に捉えさせるために、意見交換をする。
	３．自然の偉大さについて考える。 ①人間の力をはるかにこえた自然の力に出会ったとき、人はどのように感じるのだろう。 ４．災害に強いまちづくりに向けて、必要なことは何だろう。 防災について準備していることはなんだろう ・地震に耐久性のある建物 ・避難場所の確認 ・防災用具の準備 ・ＴＶやネットの情報リテラシー		○自然が美しさと恐ろしさを併せもっていること、その中で人間が生きていることを押さえさせるために、身近な生活から考える。 ○「自然災害大国日本」のシートを配り、日本の災害の多さを実感する。 ○人間と自然との関係を考える。
終末	４．今日の学習を振り返り、学んだことはなんだろう。		○本日の授業全体を通して、振り返りをしていく。

24　火の島(教科書 p.132～137)

学習日 令和 5 年　11 月　30 日

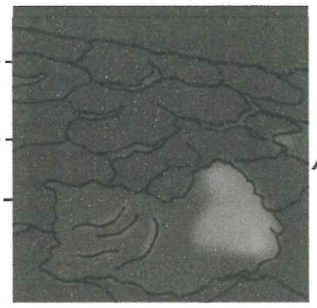
2 組　6 番　名前　尾川華菜

問い：作者が，「絶対に忘れられない感動的な一日になった。」と言うのは，どうしてだろう。
（自分の考えや友達の考えなど）

・時を忘れ夢中になるほどすごかったから。

・地球上で最も神聖な場所だと感じたから。

・人はの中で最も過酷だったから。



問い：人間の力をはるかにこえた自然の力に出会ったとき、人はどのような思いをいだくのだろう。

・すごい　・感動する。

つぶやき（防災について）

何も意識したことがなかったけれど、日本は災害が多いから、何か対策はしておいたほうがいいのかなと思いました。ペットボトルを用意しておいたり、ひなん場所を調べておきたいです。

検 1-23.12.07 金井

ふり返ってみよう

1	教材について，興味をもって読めましたか？	Ⓐ B C D
2	自分の考えを伝えることができましたか？	A Ⓑ C D
3	友達の考えを聞くことができましたか？	Ⓐ B C D
4	授業の内容について，深く考えることができましたか？	Ⓐ B C D

A：意欲的にできた　B：できた　C：あまりできなかった　D：できなかった

24　火の島(教科書 p.132～137)

学習日　2023 年　11 月　30 日

2 組　7 番　名前 小澤 佳月

問い：作者が，「絶対に忘れられない感動的な一日になった。」と言うのは，どうしてだろう。
（自分の考えや友達の考えなど）

溶岩が撮れたから。
地球上で最も神聖な
場所だと確信したから。
人生の中で最も過酷な
さつえいになったから。
時を忘れるほどきれい
だった
から。

問い：人間の力をはるかにこえた自然の力に出会ったとき，人はどのような思いをいだくのだろう。

ここまで頑張ってきてよかった。　感動する。

つぶやき

（防災について）
備える（防災がおきたときのために）ニュースを見る
↑例 非常食など

検 23.12.07 金井

ふり返ってみよう

1	教材について，興味をもって読めましたか？	(A) B C D
2	自分の考えを伝えることができましたか？	(A) B C D
3	友達の考えを聞くことができましたか？	(A) B C D
4	授業の内容について，深く考えることができましたか？	(A) B C D

A：意欲的にできた　B：できた　C：あまりできなかった　D：できなかった

24　火の島(教科書 p.132～137)

学習日　2023 年　11 月　30 日

2 組　13 番　名前 川田雅斗

問い：作者が，「絶対に忘れられない感動的な一日になった。」と言うのは，どうしてだろう。
（自分の考えや友達の考えなど）

とても過酷なさつえいだったけど神聖な場所だったから。

問い：人間の力をはるかにこえた自然の力に出会ったとき、人はどのような思いをいだくだろう。

感動する。この世の終わりだと思う。よかったこと思う。

つぶやき（防災について）
災害が起こった時、ぼくはニュースとかの情報をしっかり見て、そこで、災害によってルールみたいのを守り、正確な行動をします。

検 23.12.07 金井

ふり返ってみよう

1	教材について，興味をもって読めましたか？	A (B) C D
2	自分の考えを伝えることができましたか？	A (B) C D
3	友達の考えを聞くことができましたか？	A (B) C D
4	授業の内容について，深く考えることができましたか？	A (B) C D

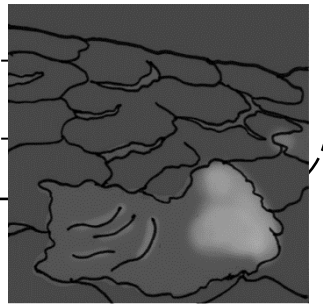
A：意欲的にできた　B：できた　C：あまりできなかった　D：できなかった

24　火の島(教科書 p.132～137)

学習日　　年　　月　　日

組　　番　名前

問い：作者が，「絶対に忘れられない感動的な一日になった。」と言うのは，どうしてだろう。
（自分の考えや友達の考えなど）



問い：

つぶやき

ふり返ってみよう

1	教材について，興味をもって読めましたか？	A　B　C　D
2	自分の考えを伝えることができましたか？	A　B　C　D
3	友達の考えを聞くことができましたか？	A　B　C　D
4	授業の内容について，深く考えることができましたか？	A　B　C　D

A：意欲的にできた　B：できた　C：あまりできなかった　D：できなかった

12

自然災害大国日本

日本ほど災害が起こる国は、世界でも珍しい？

近年日本で発生した、東日本大震災や西日本豪雨、御嶽山噴火（おんたけさんふんか）といった自然災害。なんだか日本は特に多いように感じますが、地形や地質、気象などの自然的条件が組み合わさり、日本は地震、台風、火山噴火、豪雨、洪水などの自然災害が発生しやすい国土なのです。だからこそ、平穏なうちから災害に備えなければなりません。

小さな島国なのに大地震も活火山の数も多い日本

世界で起こったマグニチュード6以上の地震のうち20.8%が日本で発生しており、世界にある活火山のうち7%が日本にあります。日本の国土面積が世界の1%にも満たないことを考えると、非常に高い割合です。いつ、どこで発生するかわからず、みんなが忘れたころにやってくる自然災害は、日常のちょっとした備えや防災の意識で、被害を減らすことができます。日本は昔から大きな災害に見舞われても、あきらめることなく何度も復興してきた歴史があります。だからこそ、今後も起こるであろうさまざまな災害に、地域の一人ひとりが力を合わせて立ち向かうためにも、今から備えていくことが必要です。

解決アクション！

この社会課題と関係が深いSDGs

13 気候変動に具体的な対策を

災害には気候の影響を大きく受けるものもあるため、災害への備えとともに気候変動への対策も必要になります。

15 陸の豊かさも守ろう

森林伐採（ばっさい）が土壌の保水機能を低下させ、針葉樹の植林が地滑（じすべ）りと関係しています。森林をしっかり管理することで自然災害を削減できると言われています。

17 パートナーシップで目標を達成しよう

地域の人とのパートナーシップが、自然災害の際の適切な対応につながると言われています。そのためにも日ごろの近隣住民との関係性づくりが重要です。

豆知識

日本列島は太平洋プレート、フィリピン海プレート、ユーラシアプレート、北米プレートという4つのプレートによって形成されています。そのため、地震や火山の活動が活発です。地面の下に災害大国日本の秘密が隠されているんです。

考えてみよう

Q1 なぜ日本には自然災害が多いのでしょうか？考えてみよう。

Q2 多くの自然災害を経験してきた日本、どのような言い伝えや教えがあるか、調べてみよう。

Q3 災害に強いまちづくりに向けて、必要なことはなんでしょうか？議論をしてみよう。

榛名中学校　道徳実践報告

①
対象：中学１年

実践内容：NHK　for　school　を利用した道徳授業

タイトル：ココロ部！　「みんなに合わせる”友情”」

選択した背景：中学校生活にも慣れてきたころ、生徒間でスマホによるSNSのトラブルがありました。当該生徒には事情を聞き、反省しました。その後、トラブルは起きませんでしたが、SNS のトラブルは学年全体としても指導していくべきとのことで道徳の題材を探していました。
　また、指導案の例やワークシートもアップされており、学年で各教室一斉に指導することもできました。

実際にありそうな場面が設定されており、生徒は「サイアクー！」とか「マジ！？」などVTRの登場人物に感情移入したり、その後の感想を言い合う場面では友達の意見に対して頷いたりしているなど生徒が共感している様子が見られました。

②
対象：中学１年

主題名：集団生活の向上

タイトル：合唱コンクールダイヤモンドランキング

選択した背景：中学に入学して初めての合唱コンクールであり、どのような行事なのか紹介することをかねて道徳で取り扱った。

グループ活動で「合唱コンクールで大切だと思うことをランキングして下さい。」という質問に対し、順位をつけていくという内容です。普段、控えめな生徒や自分の気持ちを表現することが苦手な生徒も班の中で「順位をつけるだけ」なので気持ちのハードルが下がり、意見交換が活発だったことが印象的でした。

令和５年８月吉日

各都道府県教育委員会教育長　様
各市町村教育委員会教育長　様
各　　学　　校　　長　様
各　　関　　係　　者　様

全国小学校道徳教育研究会
会　長　　小　西　祐　一
全日本中学校道徳教育研究会
会　長　　月　田　行　俊
北海道函館大会運営実行委員会
委員長　　永　井　貴　之

第５９回　全国小学校道徳教育研究大会
第５７回　全日本中学校道徳教育研究大会
第５８回　北海道道徳教育研究大会

****

北 海 道 函 館 大 会 （最終案内）

****

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
さて、標記の研究大会を下記のとおり、北海道函館市で開催いたします。
つきましては、道徳教育の充実・発展のために、全国各地より皆様方にご参加をいただき、ご指導ならびにご助言を賜りたくご案内申し上げます。

大会主題　**主体的に学び合う児童生徒の育成**
副 主 題　**～Well-being の実現を目指した道徳教育の実践～**

１　期　日　　令和５年１１月１日（水）・２日（木）

２　会　場　　【第１日目】
〇公開授業・授業研究分科会・課題別分科会・全国理事会
◆小学校会場　函館市立鍛神小学校
函館市鍛治２丁目４６－４　　TEL　0138-51-4503

◆中学校会場　函館市立亀田中学校
函館市美原３丁目３０－３　　TEL　0138-46-3005

【第２日目】
〇開会行事・基調提案・指導講話・閉会行事
◆函館市民会館　　函館市湯川町１丁目３２－１　TEL　0138-57-3111

３　主　催　　全国小学校道徳教育研究会　全日本中学校道徳教育研究会　北海道道徳教育研究会
函館市小学校道徳教育研究会　函館市中学校道徳教育研究会

４　後　援　　文部科学省　北海道教育委員会　函館市教育委員会
北海道小学校長会　北海道中学校長会　函館市小学校長会　函館市中学校長会

５　協　賛　　（公益財団法人）上廣倫理財団　（公益財団法人）石橋財団
（公益財団法人）日本教育公務員弘済会北海道支部

６　大会日程
【第１日目　１１月１日（水）】
〇公開授業・授業研究分科会・課題別分科会・全国理事会
◆小学校会場：函館市立鍛神小学校　◆中学校会場：函館市立亀田中学校

10:00 11:00　11:45㈱　11:50㈱　12:45　14:15 14:30　16:00 16:30　18:00

受付	公開授業（各会場）	昼食	授業研究分科会（各会場）	移動	課題別分科会（各会場）	移動	全国理事会（各会場）

【第２日目　１１月２日（木）】
〇開会行事・基調提案・指導講話・閉会行事　◆会場：函館市民会館

9:00　9:30　10:00　10:10　11:40 11:50　12:10

受付	開会行事 基調提案	会場準備	指導講話	会場準備	閉会行事

第１日目　１１月１日（水）　公開授業・授業研究分科会・課題別分科会・全国理事会

10:00	11:00	11:45 ㈱ 11:50 ㈱	12:45	14:15	14:30	16:00	16:30	18:00
受付	公開授業（各会場）	昼食	授業研究分科会（各会場）	移動	課題別分科会（各会場）	移動	全国理事会（各会場）	

＜小学校会場：函館市立鍛神小学校＞

◇公開授業

学年	授業者	主題名	内容項目	教材名
１年	函館市立鍛神小学校 安彦　有里恵	ゆうきを出して	Ａ善悪の判断，自律，自由と責任	やめろよ
２年	北海道教育大学附属函館小学校 春木　知沙都	自分のいいところ	Ａ個性の伸長	いいところみいつけた
３年	函館市立鍛神小学校 棚山　花穂	相手を思いやる心	Ｂ親切，思いやり	バスの中で
４年	函館市立柏野小学校 藤村　美由紀	分けへだてなく	Ｃ公正，公平，社会正義	いじりといじめ
５年	函館市立鍛神小学校 髙井　文恵	温かな思い	Ｂ親切，思いやり	くずれ落ちただんボール箱
６年	函館市立南本通小学校 三浦　明子	よりよいきまり	Ｃ規則の尊重	団地と子犬

※　教材はいずれも日本文教出版「小学道徳 生きる力」

◇授業研究分科会

分科会	指導助言者	運営・司会者	記録者
小学校第１分科会 小学校低学年	函館市教育委員会　教育指導課 指導主事　林　修司	北海道教育大学附属函館小学校 教諭　阿保　裕也	函館市立大森浜小学校 教諭　新沼　誠子
小学校第２分科会 小学校中学年	北海道教育委員会 北海道教育庁檜山教育局 義務教育指導班主査　井田　昌之	函館市立南本通小学校 教諭　坂口　厚汰	函館市立昭和小学校 主幹教諭　松井　貴洋
小学校第３分科会 小学校高学年	北海道教育委員会 北海道教育庁学校教育局 義務教育課主査　平山　道大	函館市立港小学校 教諭　北村　明子	函館市立北昭和小学校 教諭　橋本　奏旅

◇課題別分科会

第１分科会テーマ「道徳教育の指導計画と評価」					
●運営者 帯広市立豊成小学校　教諭　阪本　智		●記録者 別海町立中春別小学校　教諭　伊藤　隼弘			
提案者	北海道教育大学附属釧路義務教育学校 教諭　山崎　博幸	指導助言	北海道教育委員会 北海道教育庁渡島教育局 主任指導主事　中嶋　由佳	司会者	斜里町立斜里中学校 教頭　遠藤　真一
	高崎市立中居小学校 教諭　大木　佐知子		前橋市立城東小学校 校長　藤井　麻里		高崎市立八幡小学校 校長　前島　朗
第２分科会テーマ「道徳科の指導と評価」					
●運営者 当麻町立当麻小学校　教諭　石川　桂子		●記録者 苫前町立苫前小学校　教頭　酒井　康有			
提案者	東川町立東川小学校 教諭　守屋　真奈美	指導助言	北海道教育委員会 北海道教育庁檜山教育局 義務教育指導班主査　井田　昌之	司会者	旭川市立正和小学校 教諭　伊藤　陽子
	新庄市立明倫学園 教諭　松田　駿		鮭川村立鮭川小学校 校長　柿崎　聖		新庄市立日新小学校 教諭　後藤　幸恵
第３分科会テーマ「道徳科と他の教育活動との関連」					
●運営者 札幌市立美園小学校　教諭　石黒　達也		●記録者 札幌市立芸術の森小学校　教諭　中泉　了祐			
提案者	札幌市立幌南小学校 教諭　堀崎　将大	指導助言	北海道教育委員会 北海道教育庁学校教育局 義務教育課主査　平山　道大	司会者	小樽市立朝里小学校 主幹教諭　齋藤　直哉
	瀬戸内市立国府小学校 主幹教諭　尾崎　正美		瀬戸内市立邑久小学校 校長　田中　耕二		赤磐市立桜が丘小学校 指導教諭　古市　剛大
第４分科会テーマ「道徳科における教材の選択と活用」					
●運営者 福島町立吉岡小学校　校長　寒河江　孝之		●記録者 北斗市立浜分小学校　教諭　平野　光希			
提案者	南越前町立南条小学校 教諭　清水　まきこ	指導助言	福井市立春山小学校 校長　西行　智美	司会者	南越前町立南条小学校 校長　今村　公一
	高松市立中央小学校 教諭　篠原　弘樹		北島町立北島小学校 校長　橋本　隆		南国市立白木谷小学校 校長　高橋　雅兄
第５分科会テーマ「今日的な課題・地域性等を生かした道徳教育」					
●運営者 函館市立北昭和小学校　教頭　平石　仁恵		●記録者 函館市立大森浜小学校　主幹教諭　福崎　梢			
提案者	滋賀大附属小学校 教諭　北沢　和也	指導助言	長浜市教育委員会　教育改革推進室 教育改革推進員　横尾　俊美	司会者	竜王町立竜王小学校 校長　山本　照代
	鹿児島市立田上小学校 教諭　日高　慎一		南さつま市立金峰学園 校長　永里　智広		鹿児島市立田上小学校 教諭　別府　亮太

＜中学校会場：函館市立亀田中学校＞　HP アドレス　https://hakodate-kameda-jhs.edumap.jp/

◇公開授業【道徳教育推進教師を核とした組織的授業づくり（ローテーション道徳）：予定】

学年	１組	２組	３組	４組	５組
１年	お互いを認め合う 「自分だけ『余り』になってしまう…」 Ｂ相互理解，寛容 〈岡崎　光男〉	友達のよさ 「旗」 Ｂ友情，信頼 〈櫻井　純〉	公平とは何か 「公平と不公平」 Ｃ公正，公平，社会正義 〈村田　麻由〉	きまりを守る社会 「ふれあい直売所」 Ｃ遵法精神，公徳心 〈中鉢　悠斗〉	誠実な生き方 「裏庭でのできごと」 A自主，自律，自由と責任 〈滝口　真紀子〉
２年	さりげない優しさ 「名乗り出なかった友」 Ｂ思いやり，感謝 〈橋田　みどり〉	自己を見つめる 「『自分』ってなんだろう」 Ａ向上心，個性の伸長 〈奥田　章人〉	規則の役割 「美しい鳥取砂丘」 Ｃ遵法精神，公徳心 〈高瀬　優子〉	自然環境を守る 「よみがえれ、えりもの森」 Ｄ自然愛護 〈中村　英彦〉	
３年	かけがえのない郷土 「『稲むらの火』余話」 C郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度 〈田中　幸樹〉 〈石井　咲也子〉	自然への畏敬 「風景開眼」 Ｄ感動，畏敬の念 〈山根　理津子〉	周りへの感謝 「塩むすび」 Ｂ思いやり，感謝 〈中川　陽介〉	人を好きになる 「ゴリラのまねをした彼女を好きになった」 Ｂ友情，信頼 〈西山　麻衣子〉	家族の在り方 「一冊のノート」 C家族愛，家庭生活の充実 〈荒関　俊太〉 〈藤本　瑠人〉

※上から「主題名」「教材名」「内容項目」「授業者」：日本文教出版「あすを生きる」による

◇組織的な授業づくりを進めるための対話

流れ		運営記録
主旨 説明	函館市中学校道徳教育研究会 研究部長　川合　園子　（函館市立亀田中学校）	函館市中学校 道徳教育研究会 会員による
対話	小グループに分かれ，『Well-being な道徳科授業づくり』について 各地域での実態や実践を交流し合い，持続可能な学校ぐるみの 道徳教育・授業づくりについて，主体的・対話的に深める。	
指導 助言	北海道教育委員会 北海道教育庁渡島教育局　義務教育指導班主査　松本　了祐 函館市教育委員会　教育指導課　指導主事　馬場　一徳	

◇課題別分科会

第１分科会テーマ「道徳教育の指導計画と評価」					
●運営者 函館市立桔梗中学校　教頭　中田　宗男			●記録者 函館市立北中学校　教諭　佐藤　志織		
提案者	野々市市立布水中学校 教諭　河島　統志	指導助言	白山市立松任中学校 校長　日向　正志	司会者	野々市市立野々市中学校 教諭　長谷川　鮎美
	米子市立加茂中学校 教諭　南葉　知佳		米子市立東山中学校 校長　髙多　宏樹		日野町立日野学園 校長　砂流　誠吾
第２分科会テーマ「道徳科の指導と評価」					
●運営者 札幌市立羊丘中学校　教頭　大久保　俊博			●記録者 札幌市立平岡緑中学校　教諭　田村　謙治		
提案者	札幌市立中央中学校 教諭　平井　旭人	指導助言	北海道教育委員会 北海道教育庁渡島教育局 義務教育指導班主査　松本　了祐	司会者	岩内町立岩内第一中学校 教諭　山本　啓太
	高島市立マキノ中学校 教諭　浦島　利宇		滋賀県教育委員会 事務局幼小中教育課 指導主事　野々村　愛子		高島市立マキノ中学校 校長　清水　佳治
第３分科会テーマ「道徳科と他の教育活動との関連」					
●運営者 せたな町立瀬棚中学校　教頭　山本　雅樹			●記録者 函館市立深堀中学校　教諭　小林　元貴		
提案者	大田区立南六郷中学校 教諭　三瓶　真悟	指導助言	世田谷区立砧中学校 校長　加藤　敏久	司会者	多摩市立聖ヶ丘中学校 校長　麻生　隆久
	香川大学教育学部附属坂出中学校 教諭　香川　千夏		南国市立北稜中学校 校長　和田　礼史		伊予市立港南中学校 主幹教諭　重松　直綾
第４分科会テーマ「道徳科における教材の選択と活用」					
●運営者 松前町立松前中学校　校長　山岸　申弥			●記録者 松前町立松前中学校　教諭　高倉　奈穂		
提案者	山田町立山田中学校 教諭　橋浦　公一	指導助言	宮古市立川井小学校 副校長　及川　千暁	司会者	盛岡市立上田中学校 教諭　山田　将之
	壱岐市立石田中学校 教諭　道越　慈久		長崎市立伊王島中学校 校長　荒木　俊明		長崎市立日吉中学校 校長　津村　美樹彦
第５分科会テーマ「今日的な課題・地域性等を生かした道徳教育」					
●運営者 様似町立様似中学校　教諭　赤澤　洋一			●記録者 苫小牧市立泉野小学校　教諭　河毛　留美		
提案者	岩見沢市立栗沢中学校 教諭　西藤　秀美	指導助言	北海道教育委員会 北海道教育庁胆振教育局 義務教育指導班主査　鈴木　理沙	司会者	苫小牧市立澄川小学校 教諭　坂井　弘
	前橋市立大胡中学校 教諭　瀬戸山　千穂		玉村町立上陽小学校 校長　増田　眞次		高崎市立吉井西中学校 教諭　小林　輝良

【全国理事会】

＜会場：各小中学校＞

16:15 16:30　　18:00

受付	全国小学校道徳教育研究会理事会 全日本中学校道徳教育研究会理事会

第２日目　１１月２日（木）　開会行事・基調提案・指導講話・閉会行事

＜会場：函館市民会館＞

9:00　9:30　10:00　10:10　11:40 11:50　12:10

受付	開会行事 基調提案	会場 準備	指導講話	会場 準備	閉会行事

◇開会行事

1	開会の言葉	全国小学校道徳教育研究会副会長	山本　洋
2	主催者挨拶	全国小学校道徳教育研究会会長	小西祐一
		北海道道徳教育研究会会長	荒川芳央
3	来賓祝辞	北海道教育委員会教育長	倉本博史　様
		函館市教育委員会教育長	藤井壽夫　様
4	閉式の言葉	全国小学校道徳教育研究会副会長	吉田友信
※	諸連絡	北海道函館大会運営実行委員会事務局長	古谷賢一

◇基調提案

提　　案　主体的に学び合う児童生徒の育成～Well-being の実現を目指した道徳教育の実践～

提 案 者　函館市中学校道徳教育研究会 研究部長
函館市立亀田中学校　教諭　川　合　園　子

◇指導講話

○講師紹介　大会運営実行委員長　函館市小学校道徳教育研究会会長　永井貴之

○講　　師　文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
堀田竜次　様

○演　　題　「 よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の推進・充実 」

○謝　　辞　大会運営実行副委員長　函館市中学校道徳教育研究会会長　吉田敬三

◇閉会行事

1	開会の言葉	全日本中学校道徳教育研究会副会長	榮　葉子
2	主催者挨拶	全日本中学校道徳教育研究会会長	月田行俊
3	お礼の言葉	北海道函館大会運営実行委員長	永井貴之
4	次期開催地挨拶	徳島県小学校教育研究会道徳部会会長	中野勝邦
		神奈川県公立中学校教育研究会道徳教育部会 会長	山川俊英
5	閉式の言葉	全日本中学校道徳教育研究会副会長	麻生隆久
※	諸連絡	北海道函館大会運営実行委員会事務局長	古谷賢一

大 会 参 加 申 込 に つ い て

1　大会参加申込について

・本大会は、新型コロナウィルス感染症防止対策のため、一般参加につきましては、４００名まで（小学校２００名、中学校２００名）の制限を設けて開催します。

・参加上限に達した時点で申込を締め切らせていただきますので、ご了承ください。
（上限に達した際は、申込サイトにてお知らせいたします。）

・申込の際は、「公開授業（小学校会場のみ）」と「課題別分科会」について、それぞれ第１希望と第２希望をご記入ください。申し訳ありませんが、参観および参加につきまして、事務局で調整させていただきます。

・課題別分科会関係の皆様（提案者、司会者、運営者、記録者等）も申込サイトでお申し込みください。申し訳ありませんが、参加費もお願いします。なお、課題別分科会関係の皆様は、「課題別分科会」の第２希望は、第１希望と同じものをご入力ください。

大会申込サイト
ＱＲコード

◆申込方法

・原則として、ウェブサイトでの申込となります。下記ＵＲＬまたはＱＲコードから申込サイトにアクセスし、必要事項を入力してお申し込みください。

HPアドレス　https://va.apollon.nta.co.jp/doutoku_hakodate2023/

◆申込期間

・申込期間は、**令和５年８月２１日（月）１３：００～９月１５日（金）１７：００**までとしております。

・調整後、９月２５日（月）までに申込サイトに入力していただいた連絡先にメールでお知らせします。

2　参加費・別途料金について（料金は全て税込の代金です。）

◆大会参加費

・大会参加費　　５，０００円（※大会要項と研究集録の代金を含んでいます。）

◆別途料金（ご希望の方は、お申し込みください。）

・弁当代金（お茶付き）　　１，２００円（※１日目の昼食となります。受け取りについては、各会場にてご案内いたします。）

・宿泊代金　　別　　記　（※詳細については申込サイトをご参照ください。）

・１日目のアクセスについては，シャトルバスを運行する予定となっております。詳細については，後日大会申込サイトにてお知らせいたします。

◆支払い方法

・お支払いは、旅行代理店のお支払い方法にてご確認ください。（申込サイトをご参照ください。）

・振込手数料については、恐れ入りますが参加者の方のご負担となりますので、ご了承ください。

・お支払いは、**令和５年１０月１０日（火）**までにお願いいたします。

3　その他

・新型コロナウィルス感染症の状況により，開催日程や内容を変更する場合があります。その際は、申込サイトに入力していただいた連絡先にメールでお知らせします。

・個人情報保護の観点から、個人が特定されるような撮影や画像の公開はお控えください

研　究　大　会　　会　場　案　内

◇１日目　授業会場「鍛神小学校」「亀田中学校」までの所要時間

☆ＱＲコードを読み取ると、google マップで、おすすめの移動手段、所要時間、授業会場までの地図などを調べることができます。

バス乗車停留所 ＼ バス降車停留所		鍛神小学校（神山通）	亀田中学校（亀田中学校前）
函館駅前	バス	約３５分	約３０～４０分
	タクシー	約２０分	約２５分
五稜郭公園前	バス	約１５～３０分	約１５～３０分
	タクシー	約１５分	約２０分
湯の川温泉	バス	約３０～５０分	約３０～４５分
	タクシー	約２０分	約２５分
函館空港	バス	約３０～５０分	約４０～５５分
	タクシー	約２５分	約３０分

☆２日目　「函館市民会館」までの所要時間

函館駅前	バス	約３０分
	函館市電	約３５分
五稜郭公園前	バス	約１５分
	函館市電	約１８分

◆小学校会場
函館市立鍛神小学校
函館市鍛冶２丁目 46－4
TEL　0138-51-4503

◆中学校会場
函館市立亀田中学校
函館市美原３丁目 30－3
TEL　0138-46-3005

◆開会行事・基調提案・指導講話・閉会行事会場
函館市民会館
函館市湯川町１丁目 32－1
TEL　0138-57-3111

大会ＨＰ　　下記ＵＲＬまたはＱＲコードから大会ホームページをご覧いただくことができます。（申込サイトとは、別になりますのでご留意ください。）

ＨＰアドレス　https://sites.google.com/view/doutoku58hakodate/

大会ホームページ
ＱＲコード

お問い合わせ　函館市立駒場小学校　教諭　古谷　賢一
〒042－0935　函館市駒場町１番６号
TEL　0138-52-2364　　FAX　0138-52-2365
E-mail　furuya@hakodate-hkd.ed.jp

群馬県前橋市立大胡中学校　第５分科会

道徳教育を核としてウェルビーイングな社会をつくる

～道徳授業から始まる地域巻き込み型プロジェクト～

１　はじめに

令和３年１月の中教審答申では「令和の日本型教育」の構築を目指す一つの指針として、ウェルビーイング（Well-being）を実現していくために、自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力を身に付けることの重要性が指摘された。(※1) これらの資質・能力の育成は道徳教育で目指す道徳性の育成及び人としての生き方や在り方に繋がるものであり、ウェルビーイングを実現させることは道徳教育の目標の達成との親和性も高い。また、これは SDGｓ（持続可能な開発目標）の目標として示されている、よりよい社会の仕組みをつくることにも繋がる。

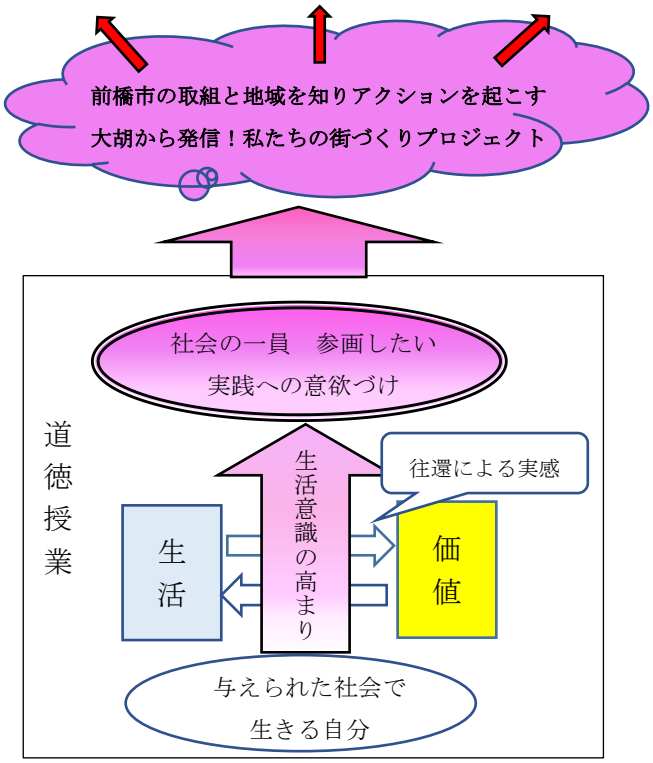
SDGs は、2015 年９月に国連で開催されたサミットのなかで、貧困、不平等・格差、気候変動による影響など、世界のさまざまな問題を根本的に解決し、すべての人たちにとってより良い世界をつくるために設定された、世界共通の 17 の目標である。(※2) ここで目指している、世代を超えたすべての国、すべての地域の人々が誰一人取り残されることなく尊重される社会は、令和の日本型教育が目指している社会の在り方でもあるといえる。

SDGｓに関する活動は、群馬県前橋市の広報をはじめ、様々な雑誌やウェブ記事で紹介されており、子どもたちも一度は耳にしたことがある身近な事例である。一方で子どもに SDGｓについての考えを訊いたときの「具体的な内容はわからない」「何だかちょっと難しそう」という回答のとおり、子どもの生活からやや離れている一面もある。

そこで、道徳科で高まった道徳的実践意欲を実現する場として総合的な学習の時間を位置づけ、子どもたちの思いを実現できる総合単元的な道徳学習を構想した。

ここでは、SDGs の「11　住みやすい街づくり」を視野に入れた道徳科の授業実践と、道徳科の授業をきっかけに始まった、地域を巻き込んだ総合的な学習の時間の実践（構想の概要は図１の通り）について述べる。

図１



「個を育てる道徳授業」1975 を基に瀬戸山が加筆・修正

２．本単元の授業構想を支える考え方について

道徳科はかつてより、Ａ型と呼ばれる本質主義とＢ型と呼ばれる進歩主義に根差した授業が展開されてきた。貝塚（2020）は、道徳教育は大きく分けて二つの考え方があると主張する。(※3) 一つは本質主義（essentialism）である。本質主義は、歴史の試練に耐えてきた文化遺産としての教育的価値及び社会や共同体のなかで大切にされる規範や慣習、道徳的価値を子どもに伝達し、内面化を図ることを重視している。もう一つは進歩主義（progressivism）である。進歩主義は、子

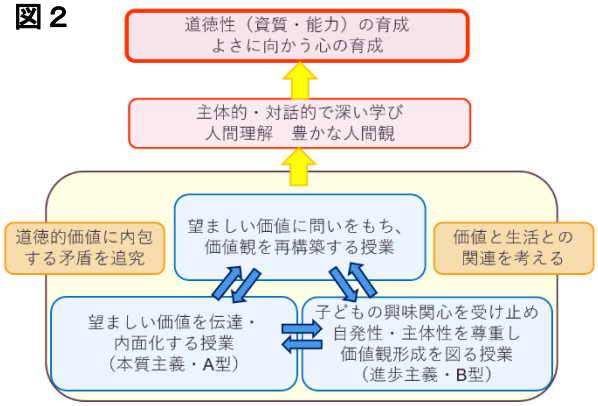
どもの興味・関心・成長欲求を受け止めることを重視し、子どもの自発性・主体性を尊重して活動意欲を引き出すことに道徳教育の目的を置くものである。

伊藤（1996）は、本質主義的道徳教育と進歩主義的道徳教育を合流させた、統合的道徳教育を提唱し、本質主義に偏らない道徳教育、特に子どもの立場に立った道徳教育を推進する立場を取っている。（※4）具体的には、ねらいとする道徳的価値を内面化することを第一義とするＡ型の授業と、子どもの個性的・主体的な価値表現や価値判断の受容を第一義とするＢ型の授業をバランスよく配置し、多時間プログラムで重要な道徳的テーマをじっくりと深めることを目指してカリキュラムを編成している。

伊藤が主張しているＡ型とＢ型だけではない、新たな道徳授業のスタイルとして、近年注目されているのが、問いを子ども自身の問いにする加藤宣行（2018）の KTO 型（※5）や子ども自身が問いをつくる哲学対話などである。

これらの授業方法を、目の前の子どもたちの実態に合わせてバランスよく実施することが、子どもたちの価値観の醸成及びよさに向かう心の育成、ウェルビーイングな社会をつくろうとする原動力に繋がると考えている。（図２）

図２



３．授業実践「あったほうがいい？」（日文１年）

実際の授業では、日本文教出版１年「あったほうがいい？」の教材を活用した。方法としてはＢ型を基盤としてゆさぶりの発問や新たな視点を得られる事象を投入し、最終的に価値観を再構築する授業を目指した。以下、実際の授業の様子である。

ねらい：ごみ箱があったほうがよいかを話し合う活動を通して、街では様々な立場の人たちが関わり合いながら生活していることがわかり、多くの人たちのことを考えて自分たちも街づくりに参画していこうとする意欲を膨らませる。

【導入】

Ｔ：2050 年の社会をつくっているのは誰だろう。
Ｃ：大人じゃない。
Ｃ：ＡＩもすごい活躍してると思う。
Ｃ：総理大臣。
Ｔ：そこに君たちはいますか。
Ｃ：えー・・・。わからない。
Ｃ：2050 年は 40 かー。いるかな？
Ｔ：では、ぐっと現代に戻るよ。今の社会を見てみましょう。（ごみ箱の写真を提示）これ、何だかわかりますか？
街にあった方がいいですか？
Ｃ：あった方がいい！
（あった方がいいという声多数）
Ｔ：こんな状態でもあった方がいいですか？
（ごみが散らかったごみ箱の写真を提示する。）
Ｃ：えー、これは嫌だ。
Ｃ：捨てる人の意識の問題だと思う。
Ｃ：でも、ごみ箱がないとそもそもごみを入れられない。
Ｔ:なるほど。どんな人が利用していると思う？
Ｃ：高校生。
Ｃ：おばあちゃん。
Ｃ：子ども。

【展開】

Ｔ：そうだね。今日の教材は「あったほうがいい？」という教材。読んでみましょう。

> あらすじ
> 道でガムを踏んでしまった主人公の智子。近くにゴミ箱も見当たらず、帰宅して母親に愚痴を言う。智子の話をきいた母親は、ゴミ箱があることで、家庭ゴミが持ち込まれているなどの問題が起こっていることなどの事実があることを伝えた。母親の話を聞いた智子は、ゴミ箱を置くことの意味について考え始める。

（範読）

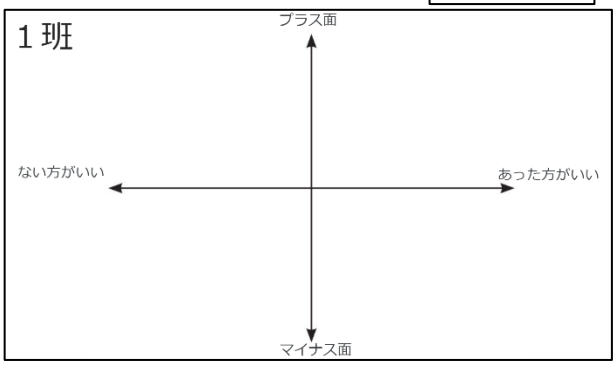
Ｔ：ごみ箱はあった方がいいですか。
Ｃ：あった方がいい！

Ｃ：うーん・・・。

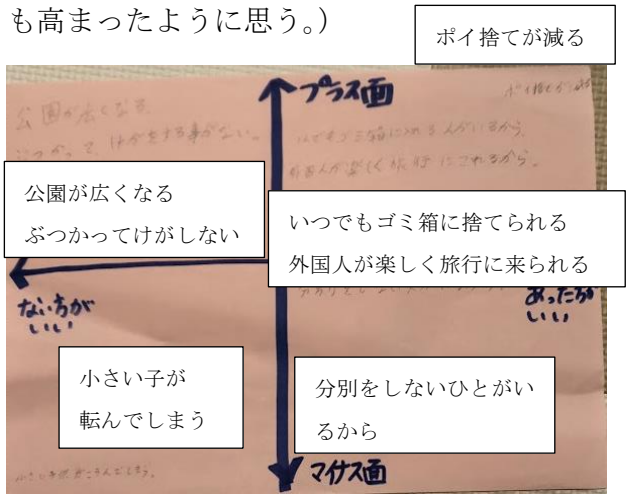
Ｔ：街に住む様々な人の立場に立って考えてみましょう。

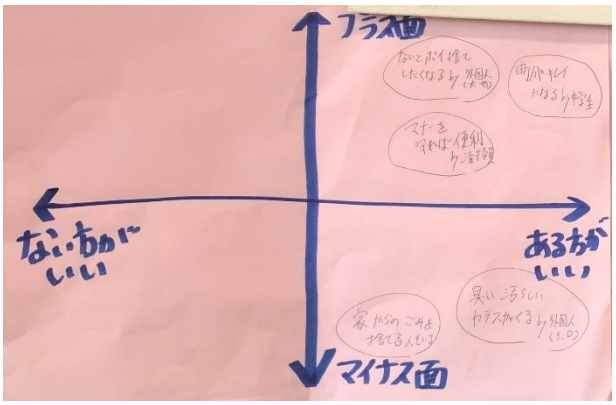
（右のような役割分担を示し、4～5 人で話し合う。）

それぞれの立場に立って対話してみましょう
1　町長
2　中学生
3　子育て中の母親
4　外国人
5　その他（自分たちで設定）



（授業では上記のようなマトリクスを活用してジャムボードを使って意見交流を行う予定だったが、都合により活用できなかった。ジャムボードを活用できるとより子どもたちの興味関心も高まったように思う。）





↑子どもたちが書いたマトリクス

※　話し合った結果、結論は町長役の子どもが伝え合った。

Ｔ：町長さん、結論を教えてください。

Ｃ：わたしの街はごみ箱を設置したい。マナーを守れば便利になるし、外国人としてはごみ箱がないとポイ捨てしたくなるから。

Ｃ：わたしの街でもごみ箱を設置したい。ごみ箱がないと捨てる場所がわからなくて、捨てたくなくても捨ててしまうと思うから。

Ｃ：一人でも捨ててくれる人がいると思う。でも、ないことでいいこともあって、公園内が広くなるかもしれない。

Ｃ：僕の街では検討中です。分別をしない人がいたり、家庭ごみを捨ててしまう人がいたりするかもしれないから。

Ｔ:置くことのデメリットもあるってことだね。

Ｃ：デメリットが多すぎて、迷ってる。

Ｔ：〇〇町長の意見、どう思う？どんな街に住みたいですか？

Ｃ：やっぱり安心できる街。

Ｃ：みんなを大切にできる街。

Ｃ：監視カメラつけて・・・

Ｃ：うわ、見張られてる！！

Ｔ：あ、なるほど、見張られてるのか見守られてるのかで違うよね。

【終末】

Ｔ：こんな街があるそうです。

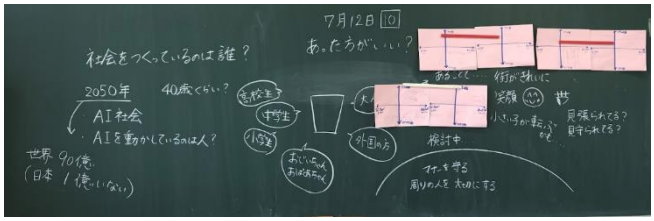
（以下の活動をしている、徳島県上勝市のゼロ・ウェイストシティを紹介した。）

「ゼロ・ウェイスト」とは、“廃棄物をどう処理するのか”のではなく、“そもそもごみを出さないようにする”という活動。徳島県上勝町は、2003 年にゼロ・ウェイストを宣言しました。17 年が経った 2020 年、リサイクル率 80％以上を達成し、世界から注目されている。ごみをださない社会を実現するために、上勝町ではごみ収集を行っていない。町民は、各自でごみを「ごみステーション」に持ち寄り、45 種類以上に分別している。また、生ごみについてはステーションで受け付けていないため、コンポストなどを利用して、各家庭で堆肥化されている。

（紹介すると、子どもたちからは感嘆の声が上がった。）

Ｃ:ごみ自体をなくす活動って面白いと思った。

Ｃ：自分たちの力で街を良くしようとしてる取組がいい。



本時の板書

以下は授業後の子どもたちの感想である。

○どんな話合いでも、色々な立場の人から様々な意見を聞くことが大切だとわかりました。今回のように、ゴミ箱があってもなくても、メリットもデメリットもあるのだと思いました。そして二択の選択肢から三択になることもあるのだと思いました。これからは、今まで以上にみんなの意見をしっかり聞いて、最善の方法をとれるようにしたいと思います。（ＴＡ）

○ゴミ箱はあった方がいいと思うが、分別していないゴミがあるのは問題だと思う。ゴミそのものを出さないようにするという徳島県のプロジェクトを前橋にも取り入れたい。（ＭＧ）

○ゴミ箱はあった方がいいと思ったけれど、話合いをしてよくわからなくなってしまった。でも、徳島の話を聞いて、そもそもを考えることで問題は解決するかもしれないと思った。ゴミ箱を置くか置かないかの問題ではなくて、それを使う人たちが人のことを思いやるのが大切。（ＭＹ）

４　事後活動（予定）

授業終盤に、福井県の「ＪＫ課」と群馬県前橋市の「市民参画型ワークショップ」を紹介した。前者は女子高生が街づくりに参画している事例であり、後者は民間企業が前橋を元気にすることを目的としたボトムアップ型の活動「あんこもん」のプロジェクト事例である。授業後、自分たちも街をよりよくするために活動してみたいという声が子どもたちから上がったことが、総合的な学習の時間の計画に繋がった。

以下はその総合的な学習の時間の計画である。（二学期実施予定）

総合（全９時間計画）

【大胡から発信！街づくりプロジェクト】

１．SDGs の意味や具体的な活動についての話を聞いて、地域で実践されている様々な活動について知る。

２．自分たちの目的ややってみたいことを明確にし、活動するための計画を立てる。

（例）あんこもんメニュー開発プロジェクト
　　街を元気に！ゴミゼロ大作戦！

３．今行われている活動を調べたり、関わっている方々を呼んで話を聞いたりする。（２時間）

４．自分たちにできるアクションを起こす。（３時間）

（例）地域を元気にするあんこメニューの開発
　　ゴミ回収の実態調査と施策、提案書の作成

５．活動を振り返り、これからもできる持続可能な活動について考える（２時間）

総合は学年単位で活動するため、学級間や他教員とも連携を取りながら進めていく予定である。

５　終わりに

2020 年の日本の総人口は 1 億 2600 万人、労働人口は 7400 万人だが、2050 年には日本の総人口は１億人を割り、労働人口は 5300 万人になると予想されている。指示待ちではなく子どもたち一人一人が主体性を発揮することで何とか社会が動く時代が、もうすぐそこまで迫ってきているのである。道徳科の授業の在り方自体もこれから変化が起こるかもしれないが、時代が変わっても大切なのは、学びと社会とを繋ぎ、よりよい社会をつくるために人を尊重して心を砕ける人を育てることである。共に手を取り合って未来を創る担い手を育てる時間であってほしいと願っている。

【参考文献】

※1　文部科学省「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」　中教審答申、 2021 年

※２　https://column.savechildren.or.jp/about-sdgs

※３　貝塚茂樹「新時代の道徳教育」　ミネルヴァ書房、2020 年

※４　伊藤啓一「「生きる力」をつける道徳授業」　明治図書、1996 年

※５　加藤宣行、岡田千穂「一期一会の道徳授業」　東洋館出版社、2016 年